

ダイワ日本株ストラテジーα (通貨選択型)

－ジャパン・トリプルリターンズ－

日本円・コース (毎月分配型)

豪ドル・コース (毎月分配型)

ブラジル・リアル・コース (毎月分配型)

米ドル・コース (毎月分配型)

通貨セレクト・コース (毎月分配型)

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信/国内/株式	
信託期間	約10年間 (2013年6月19日～2023年6月8日)	
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	日本円・コース (毎月分配型)	①ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラストークロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド (日本円・クラス)」の受益証券 (円建) ②ダイワ・マネーストック・マザーファンドの受益証券
	豪ドル・コース (毎月分配型)	①ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラストークロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド (豪ドル・クラス)」の受益証券 (円建) ②ダイワ・マネーストック・マザーファンドの受益証券
	ブラジル・リアル・コース (毎月分配型)	①ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラストークロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド (ブラジル・リアル・クラス)」の受益証券 (円建) ②ダイワ・マネーストック・マザーファンドの受益証券
	米ドル・コース (毎月分配型)	①ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラストークロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド (米ドル・クラス)」の受益証券 (円建) ②ダイワ・マネーストック・マザーファンドの受益証券
	通貨セレクト・コース (毎月分配型)	①ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラストークロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド (通貨セレクト・クラス)」の受益証券 (円建) ②ダイワ・マネーストック・マザーファンドの受益証券
組入制限	投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。	
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益 (評価益を含みます。) 等とし、原則として、継続的な分配を行なうことを目標に分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。	

運用報告書 (全体版)

第78期 (決算日 2020年1月8日)

第79期 (決算日 2020年2月10日)

第80期 (決算日 2020年3月9日)

第81期 (決算日 2020年4月8日)

第82期 (決算日 2020年5月8日)

第83期 (決算日 2020年6月8日)

(作成対象期間 2019年12月10日～2020年6月8日)

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、割安と判断される日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築し、信託財産の成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

お問い合わせ先 (コールセンター)

TEL 0120-106212

(営業日の9:00～17:00)

<https://www.daiwa-am.co.jp/>

<5765>

<5766>

<5767>

<5768>

<5769>

日本円・コース (毎月分配型)

最近30期の運用実績

決算期	基準価額			T O P I X		公社債組入比率	投資信託受益証券組入比率	純資産額
	(分配落)	税込み分配金	期中騰落率	(参考指数)	期中騰落率			
	円	円	%		%	%	%	百万円
54期末(2018年1月9日)	9,849	60	3.8	17,308	5.3	—	98.6	4,382
55期末(2018年2月8日)	9,271	60	△ 5.3	16,107	△ 6.9	—	98.5	4,058
56期末(2018年3月8日)	8,891	60	△ 3.5	15,684	△ 2.6	—	98.8	3,839
57期末(2018年4月9日)	8,983	60	1.7	15,826	0.9	—	98.9	3,757
58期末(2018年5月8日)	9,095	60	1.9	16,322	3.1	—	99.0	3,765
59期末(2018年6月8日)	9,055	60	0.2	16,467	0.9	—	99.2	3,730
60期末(2018年7月9日)	8,529	60	△ 5.1	15,570	△ 5.4	0.0	98.5	3,466
61期末(2018年8月8日)	8,880	60	4.8	16,072	3.2	0.0	98.5	3,661
62期末(2018年9月10日)	8,457	60	△ 4.1	15,504	△ 3.5	—	99.1	3,490
63期末(2018年10月9日)	8,898	60	5.9	16,501	6.4	—	98.8	3,613
64期末(2018年11月8日)	8,157	60	△ 7.7	15,210	△ 7.8	—	99.5	3,312
65期末(2018年12月10日)	7,957	60	△ 1.7	14,916	△ 1.9	—	99.1	3,185
66期末(2019年1月8日)	7,451	60	△ 5.6	13,922	△ 6.7	—	99.0	2,960
67期末(2019年2月8日)	7,707	60	4.2	14,442	3.7	—	98.9	3,011
68期末(2019年3月8日)	7,683	60	0.5	14,743	2.1	0.0	98.5	2,927
69期末(2019年4月8日)	7,984	60	4.7	14,965	1.5	—	98.8	2,977
70期末(2019年5月8日)	7,750	60	△ 2.2	14,726	△ 1.6	—	99.3	2,848
71期末(2019年6月10日)	7,393	60	△ 3.8	14,105	△ 4.2	—	98.9	2,621
72期末(2019年7月8日)	7,697	60	4.9	14,659	3.9	—	98.6	2,701
73期末(2019年8月8日)	7,213	60	△ 5.5	13,806	△ 5.8	—	98.9	2,504
74期末(2019年9月9日)	7,409	60	3.5	14,149	2.5	—	99.3	2,513
75期末(2019年10月8日)	7,384	60	0.5	14,477	2.3	—	98.5	2,492
76期末(2019年11月8日)	7,933	60	8.2	15,631	8.0	—	96.9	2,593
77期末(2019年12月9日)	7,898	60	0.3	15,771	0.9	—	97.7	2,553
78期末(2020年1月8日)	7,911	60	0.9	15,879	0.7	—	98.9	2,497
79期末(2020年2月10日)	7,851	60	0.0	15,944	0.4	—	99.3	2,441
80期末(2020年3月9日)	6,726	60	△ 13.6	13,544	△ 15.0	—	99.6	1,981
81期末(2020年4月8日)	6,339	60	△ 4.9	12,916	△ 4.6	—	99.2	1,862
82期末(2020年5月8日)	6,359	60	1.3	13,133	1.7	—	99.6	1,821
83期末(2020年6月8日)	7,023	60	11.4	14,842	13.0	—	98.9	2,007

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) T O P I Xは、当ファンド設定日を10,000として大和アセットマネジメントが計算したものです。また、基準価額への反映を考慮して、1営業日前の日付の終値を採用しています。

(注3) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

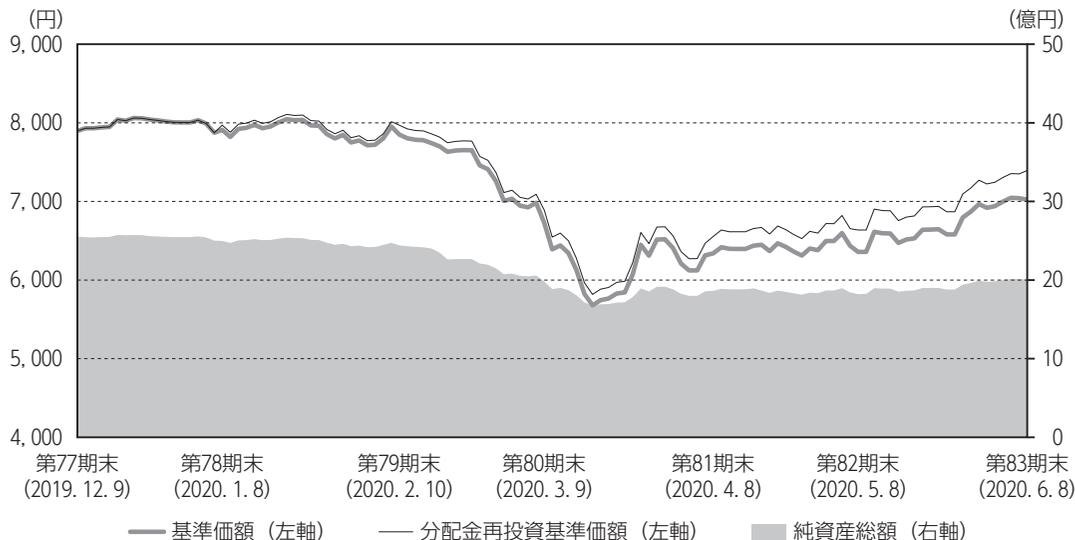
(注4) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注5) 公社債組入比率は新株予約権付社債券(転換社債券)および債券先物を除きます。



運用経過

基準価額等の推移について



* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

基準価額・騰落率

第78期首：7,898円

第83期末：7,023円（既払分配金360円）

騰落率：△6.4%（分配金再投資ベース）

基準価額の主な変動要因

日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略による運用の結果、基準価額は下落しました。株式ポートフォリオ（配当込み）が下落したことがマイナス要因となりました。また、オプション取引戦略については小幅にマイナスとなりました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ダイワ日本株ストラテジーα (通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ - 日本円・コース (毎月分配型)

	年 月 日	基 準 価 額		T O P I X		公 社 債 組入比率	投資信託 受益証券 組入比率
		騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率			
第78期	(期首) 2019年12月9日	7,898	—	15,771	—	—	97.7
	12月末	8,033	1.7	15,953	1.2	—	99.0
	(期末) 2020年1月8日	7,971	0.9	15,879	0.7	—	98.9
第79期	(期首) 2020年1月8日	7,911	—	15,879	—	—	98.9
	1月末	7,751	△ 2.0	15,416	△ 2.9	—	99.7
	(期末) 2020年2月10日	7,911	0.0	15,944	0.4	—	99.3
第80期	(期首) 2020年2月10日	7,851	—	15,944	—	—	99.3
	2月末	7,256	△ 7.6	14,434	△ 9.5	—	98.3
	(期末) 2020年3月9日	6,786	△ 13.6	13,544	△ 15.0	—	99.6
第81期	(期首) 2020年3月9日	6,726	—	13,544	—	—	99.6
	3月末	6,519	△ 3.1	13,214	△ 2.4	—	98.3
	(期末) 2020年4月8日	6,399	△ 4.9	12,916	△ 4.6	—	99.2
第82期	(期首) 2020年4月8日	6,339	—	12,916	—	—	99.2
	4月末	6,496	2.5	13,339	3.3	—	99.4
	(期末) 2020年5月8日	6,419	1.3	13,133	1.7	—	99.6
第83期	(期首) 2020年5月8日	6,359	—	13,133	—	—	99.6
	5月末	6,966	9.5	14,519	10.6	—	99.0
	(期末) 2020年6月8日	7,083	11.4	14,842	13.0	—	98.9

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

（2019. 12. 10 ～ 2020. 6. 8）

国内株式市況

国内株式市況は下落しました。

国内株式市況は、当作成期首より、米中通商協議の進展や英国選挙での与党の勝利などにより、上昇基調で始まりまして。しかし2020年1月下旬に、中国において新型コロナウイルスの感染拡大が懸念され株価が下落したことに続き、2月中旬からは新型コロナウイルスの感染が欧米に拡大し、各国の非常事態宣言や外出禁止令などにより実体経済への懸念が高まると、世界的に株価は下落しました。その後、各国の中央銀行による金融緩和策の発表や欧米での感染拡大が落ち着きをみせたことで、経済活動再開への期待から株価は当作成期末にかけて反発しました。

前作成期末における「今後の運用方針」

当ファンド

今後も、クロッキーファンド（日本円・クラス）とダイワ・マネースtock・マザーファンドに投資します。また、クロッキーファンド（日本円・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

※クロッキーファンド（日本円・クラス）：オージェンタム・トラスト・クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（日本円・クラス）

クロッキーファンド（日本円・クラス）

主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築します。

- ・投資対象銘柄は「TOP 1 X 100」構成銘柄から金融セクターに属する銘柄を除いた銘柄とします。
- ・ドイツ銀行グループが独自に開発した株式分析手法「クロッキーモデル」を用い、会計データを重点分析し、割安と判断される30銘柄を選定します。
- ・選定時における各銘柄の構成比率はおおむね均等とします。また、銘柄の見直しは約1カ月ごとに行います。
- ・個別銘柄ごとに、コール・オプションを売却することでカバードコール戦略を構築します。

ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

ポートフォリオについて

(2019. 12. 10 ~ 2020. 6. 8)

■当ファンド

当ファンドは、クロッキーファンド (日本円・クラス) とダイワ・マネースtock・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。当作成期は、クロッキーファンド (日本円・クラス) への投資割合を高位に維持することをめざしました。

■クロッキーファンド (日本円・クラス)

株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略のうち、クロッキーモデルによる銘柄選択効果が若干プラスに働き、株式ポートフォリオ (配当除く) はTOPIX指数 (配当除く) を若干上回るパフォーマンスとなりました。一方、オプション取引戦略については、想定していたオプションプレミアムは獲得したものの、一部銘柄において権利行使価格を上回る株価の上昇が発生したことなどがマイナス要因となりました。結果としてオプション取引戦略は小幅にマイナスとなりました。

株式とオプション取引の組み合わせで寄与度が高かった銘柄は、大塚ホールディングス (医薬品)、スズキ (輸送用機器)、小野薬品工業 (医薬品)、任天堂 (その他製品)、日立製作所 (電気機器) でした。また、寄与度が低かった銘柄は、西日本旅客鉄道 (陸運業)、住友商事 (卸売業)、旭化成 (化学)、三菱ケミカルホールディングス (化学)、いすゞ自動車 (輸送用機器) でした。

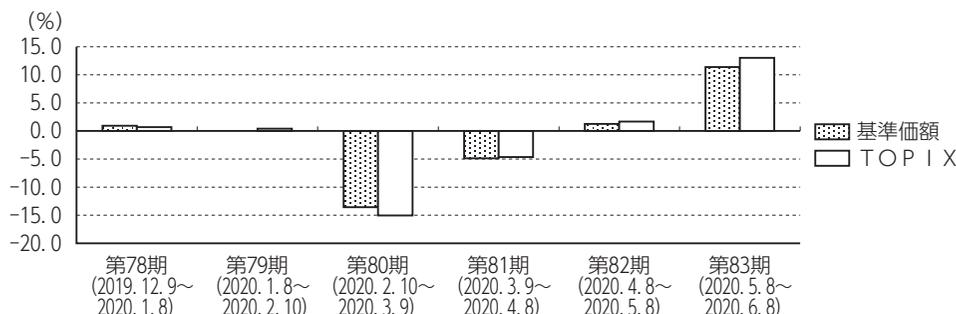
■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	第78期	第79期	第80期	第81期	第82期	第83期
	2019年12月10日 ～2020年1月8日	2020年1月9日 ～2020年2月10日	2020年2月11日 ～2020年3月9日	2020年3月10日 ～2020年4月8日	2020年4月9日 ～2020年5月8日	2020年5月9日 ～2020年6月8日
当期分配金(税込み) (円)	60	60	60	60	60	60
対基準価額比率 (%)	0.75	0.76	0.88	0.94	0.93	0.85
当期の収益 (円)	56	57	57	54	60	51
当期の収益以外 (円)	3	3	2	5	—	8
翌期繰越分配対象額 (円)	1,446	1,443	1,441	1,435	1,462	1,454

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	第78期	第79期	第80期	第81期	第82期	第83期
(a) 経費控除後の配当等収益	✓ 56.41円	✓ 57.00円	✓ 57.80円	✓ 54.31円	✓ 86.91円	✓ 51.41円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(c) 収益調整金	489.24	490.60	491.94	493.68	495.15	497.16
(d) 分配準備積立金	✓ 960.92	✓ 955.98	✓ 951.66	✓ 947.74	940.60	✓ 965.53
(e) 当期分配対象額 (a+b+c+d)	1,506.57	1,503.59	1,501.41	1,495.74	1,522.67	1,514.11
(f) 分配金	60.00	60.00	60.00	60.00	60.00	60.00
(g) 翌期繰越分配対象額 (e-f)	1,446.57	1,443.59	1,441.41	1,435.74	1,462.67	1,454.11

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



今後の運用方針

■当ファンド

今後も、クロッキーファンド (日本円・クラス) とダイワ・マネースtock・マザーファンドに投資します。また、クロッキーファンド (日本円・クラス) への投資割合を高位に維持することを基本とします。

■クロッキーファンド (日本円・クラス)

主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築します。

- ・投資対象銘柄は「TOP 1 X 100」構成銘柄から金融セクターに属する銘柄を除いた銘柄とします。
- ・ドイツ銀行グループが独自に開発した株式分析手法「クロッキーモデル」を用い、会計データを重点分析し、割安と判断される30銘柄を選定します。
- ・選定時における各銘柄の構成比率はおおむね均等とします。また、銘柄の見直しは約1カ月ごとに行います。
- ・個別銘柄ごとに、コール・オプションを売却することでカバードコール戦略を構築します。

■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

1万口当りの費用の明細

項 目	第78期～第83期 (2019. 12. 10～2020. 6. 8)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	53円	0. 742%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は7, 099円です。
(投 信 会 社)	(19)	(0. 263)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(33)	(0. 466)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(1)	(0. 013)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0. 004	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0. 004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0. 000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	53	0. 745	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

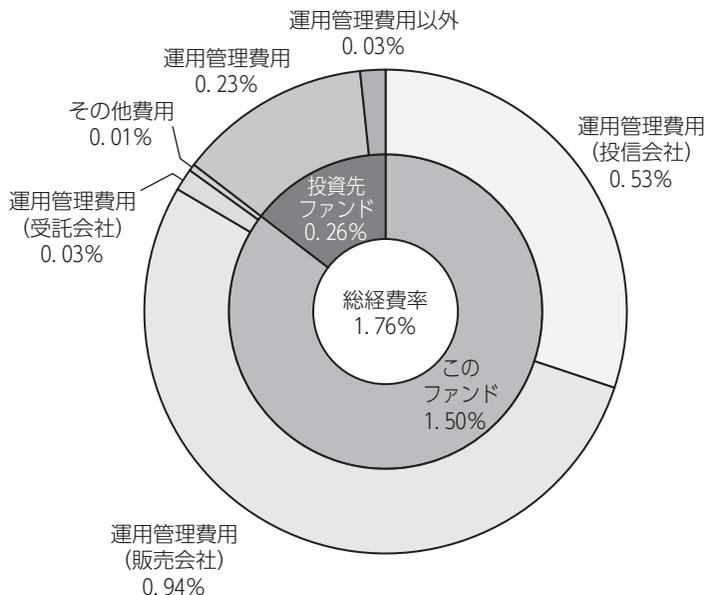
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.76%です。



総経費率（①＋②＋③）	1.76%
①このファンドの費用の比率	1.50%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.23%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.03%

(注1) ①の費用は、1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■売買および取引の状況

投資信託受益証券

(2019年12月10日から2020年6月8日まで)

決算期	第 78 期 ~ 第 83 期			
	買 付		売 付	
	口 数	金 額	口 数	金 額
外国 (邦貨建)	千口 1,900.176054	千円 121,878	千口 5,417.528841	千円 364,000

(注1) 買付は、外国投資信託から支払われた分配金による再投資分を含みます。

(注2) 金額は受渡し代金。

(注3) 金額の単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

投資信託受益証券

(2019年12月10日から2020年6月8日まで)

第 78 期 ~				第 83 期			
買 付				売 付			
銘 柄	口 数	金 額	平均単価	銘 柄	口 数	金 額	平均単価
	千口	千円	円		千口	千円	円
				CROCI JAPAN STRATEGY FUND JPY CLASS (ケイマン諸島)	5,417.528841	364,000	67

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

(1) ファンド・オブ・ファンズが組み入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	第 83 期 末		
	口 数	評価額	比 率
外国投資信託受益証券 (ケイマン諸島) CROCI JAPAN STRATEGY FUND JPY CLASS	千口 30,637.666634	千円 1,985,198	% 98.9

(注1) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注2) 評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種 類	第77期末	第 83 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	千口 398	千口 398	千円 399

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2020年6月8日現在

項 目	第 83 期 末	
	評 価 額	比 率
投資信託受益証券	千円 1,985,198	% 97.9
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	399	0.0
コール・ローン等、その他	41,431	2.1
投資信託財産総額	2,027,029	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

ダイワ日本株ストラテジーα (通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ - 日本円・コース (毎月分配型)

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2020年1月8日)、(2020年2月10日)、(2020年3月9日)、(2020年4月8日)、(2020年5月8日)、(2020年6月8日)現在

項目	第78期末	第79期末	第80期末	第81期末	第82期末	第83期末
(A) 資産	2,538,837,010円	2,483,805,644円	2,009,290,140円	1,882,779,655円	1,867,492,951円	2,027,029,411円
コール・ローン等	68,065,977	60,212,941	35,591,995	33,778,467	12,514,356	41,431,882
投資信託受益証券 (評価額)	2,470,371,671	2,423,193,381	1,973,298,823	1,848,601,866	1,814,579,314	1,985,198,247
ダイワ・マネーストック・マザーファンド (評価額)	399,362	399,322	399,322	399,322	399,282	399,282
未収入金	—	—	—	—	39,999,999	—
(B) 負債	40,865,390	42,721,951	27,877,913	19,906,322	46,312,489	19,991,531
未払金	—	—	—	—	20,000,000	—
未払収益分配金	18,945,580	18,656,590	17,676,314	17,631,779	17,182,931	17,145,629
未払解約金	18,784,748	20,688,383	7,590,965	—	6,769,305	331,987
未払信託報酬	3,117,827	3,341,267	2,560,761	2,212,395	2,285,431	2,425,534
その他未払費用	17,235	35,711	49,873	62,148	74,822	88,381
(C) 純資産総額 (A - B)	2,497,971,620	2,441,083,693	1,981,412,227	1,862,873,333	1,821,180,462	2,007,037,880
元本	3,157,596,806	3,109,431,826	2,946,052,430	2,938,629,922	2,863,821,950	2,857,604,873
次期繰越損益金	△ 659,625,186	△ 668,348,133	△ 964,640,203	△ 1,075,756,589	△ 1,042,641,488	△ 850,566,993
(D) 受益権総口数	3,157,596,806口	3,109,431,826口	2,946,052,430口	2,938,629,922口	2,863,821,950口	2,857,604,873口
1万口当り基準価額 (C/D)	7,911円	7,851円	6,726円	6,339円	6,359円	7,023円

* 第77期末における元本額は3,233,063,709円、当作成期間 (第78期~第83期) 中における追加設定元本額は29,306,964円、同解約元本額は404,765,800円です。

* 第83期末の計算口数当りの純資産額は7,023円です。

* 第83期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は850,566,993円です。

■損益の状況

第78期 自2019年12月10日 至 2020年1月8日 第80期 自2020年2月11日 至 2020年3月9日 第82期 自2020年4月9日 至 2020年5月8日
 第79期 自2020年1月9日 至 2020年2月10日 第81期 自2020年3月10日 至 2020年4月8日 第83期 自2020年5月9日 至 2020年6月8日

項目	第78期	第79期	第80期	第81期	第82期	第83期
(A) 配当等収益	20,244,733円	21,084,312円	19,605,820円	18,186,621円	27,189,445円	14,864,908円
受取配当金	20,246,498	21,085,351	19,606,707	18,188,004	27,190,148	14,865,786
受取利息	10	1	4	65	20	1
支払利息	△ 1,775	△ 1,040	△ 891	△ 1,448	△ 723	△ 879
(B) 有価証券売買損益	5,862,170	△ 17,843,255	△ 330,737,543	△ 111,776,816	△ 1,983,546	194,450,908
売買益	6,013,293	611,519	3,401,692	1,089,609	1,252,480	194,728,178
売買損	△ 151,123	△ 18,454,774	△ 334,139,235	△ 112,866,425	△ 3,236,026	△ 277,270
(C) 信託報酬等	△ 3,135,062	△ 3,359,743	△ 2,574,923	△ 2,224,670	△ 2,298,105	△ 2,439,134
(D) 当期損益金 (A + B + C)	22,971,841	△ 118,686	△ 313,706,646	△ 95,814,865	22,907,794	206,876,682
(E) 前期繰越損益金	△ 594,873,450	△ 581,013,855	△ 567,483,090	△ 894,975,385	△ 981,225,009	△ 971,388,997
(F) 追加信託差損益金	△ 68,777,997	△ 68,559,002	△ 65,774,153	△ 67,334,560	△ 67,141,342	△ 68,909,049
(配当等相当額)	(154,482,307)	(152,551,139)	(144,928,778)	(145,074,479)	(141,803,535)	(142,070,196)
(売買損益相当額)	(△ 223,260,304)	(△ 221,110,141)	(△ 210,702,931)	(△ 212,409,039)	(△ 208,944,877)	(△ 210,979,245)
(G) 合計 (D + E + F)	△ 640,679,606	△ 649,691,543	△ 946,963,889	△ 1,058,124,810	△ 1,025,458,557	△ 833,421,364
(H) 収益分配金	△ 18,945,580	△ 18,656,590	△ 17,676,314	△ 17,631,779	△ 17,182,931	△ 17,145,629
次期繰越損益金 (G + H)	△ 659,625,186	△ 668,348,133	△ 964,640,203	△ 1,075,756,589	△ 1,042,641,488	△ 850,566,993
追加信託差損益金	△ 68,777,997	△ 68,559,002	△ 65,774,153	△ 67,334,560	△ 67,141,342	△ 68,909,049
(配当等相当額)	(154,482,307)	(152,551,139)	(144,928,778)	(145,074,479)	(141,803,535)	(142,070,196)
(売買損益相当額)	(△ 223,260,304)	(△ 221,110,141)	(△ 210,702,931)	(△ 212,409,039)	(△ 208,944,877)	(△ 210,979,245)
分配準備積立金	302,288,455	296,325,511	279,719,308	276,838,727	277,080,816	273,459,177
繰越損益金	△ 893,135,644	△ 896,114,642	△ 1,178,585,358	△ 1,285,260,756	△ 1,252,580,962	△ 1,055,117,121

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程 (総額)」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	第78期	第79期	第80期	第81期	第82期	第83期
(a) 経費控除後の配当等収益	17,813,476円	17,724,560円	17,030,894円	15,961,939円	24,891,327円	14,691,718円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0	0	0	0	0	0
(c) 収益調整金	154,482,307	152,551,139	144,928,778	145,074,479	141,803,535	142,070,196
(d) 分配準備積立金	303,420,559	297,257,541	280,364,728	278,508,567	269,372,420	275,913,088
(e) 当期分配対象額 (a+b+c+d)	475,716,342	467,533,240	442,324,400	439,544,985	436,067,282	432,675,002
(f) 分配金	18,945,580	18,656,590	17,676,314	17,631,779	17,182,931	17,145,629
(g) 翌期繰越分配対象額 (e-f)	456,770,762	448,876,650	424,648,086	421,913,206	418,884,351	415,529,373
(h) 受益権総口数	3,157,596,806□	3,109,431,826□	2,946,052,430□	2,938,629,922□	2,863,821,950□	2,857,604,873□

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ						
1 万口当り分配金	第78期	第79期	第80期	第81期	第82期	第83期
		60円	60円	60円	60円	60円

●〈分配金再投資コース〉をご利用の方の税引き分配金は、決算日現在の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

《お知らせ》

■商号変更について

大和証券投資信託委託株式会社は、2020年4月1日付で、商号を「大和アセットマネジメント株式会社」に変更いたしました。

豪ドル・コース (毎月分配型)

最近30期の運用実績

決算期	基準価額			TOPIX		豪ドル為替レート		公社債組入比率	投資信託受益証券組入比率	純資産額
	(分配落)	税込み分配金	期中騰落率	(参考指数)	期中騰落率	(参考指数)	期中騰落率			
	円	円	%		%	円	%	%	%	百万円
54期末(2018年1月9日)	8,612	80	9.0	17,308	5.3	88.86	4.5	—	98.3	1,257
55期末(2018年2月8日)	7,799	80	△ 8.5	16,107	△ 6.9	85.49	△ 3.8	—	98.0	1,115
56期末(2018年3月8日)	7,164	80	△ 7.1	15,684	△ 2.6	83.13	△ 2.8	—	98.5	936
57期末(2018年4月9日)	7,163	80	1.1	15,826	0.9	82.13	△ 1.2	—	99.4	933
58期末(2018年5月8日)	7,243	80	2.2	16,322	3.1	81.91	△ 0.3	—	98.2	950
59期末(2018年6月8日)	7,321	80	2.2	16,467	0.9	83.74	2.2	—	98.9	966
60期末(2018年7月9日)	6,708	80	△ 7.3	15,570	△ 5.4	82.27	△ 1.8	0.0	98.9	876
61期末(2018年8月8日)	6,998	80	5.5	16,072	3.2	82.76	0.6	0.0	99.7	898
62期末(2018年9月10日)	6,372	80	△ 7.8	15,504	△ 3.5	78.89	△ 4.7	—	98.7	797
63期末(2018年10月9日)	6,772	80	7.5	16,501	6.4	79.96	1.4	—	98.7	844
64期末(2018年11月8日)	6,323	80	△ 5.4	15,210	△ 7.8	82.62	3.3	—	98.7	783
65期末(2018年12月10日)	6,043	80	△ 3.2	14,916	△ 1.9	81.01	△ 1.9	—	98.7	720
66期末(2019年1月8日)	5,344	80	△ 10.2	13,922	△ 6.7	77.71	△ 4.1	—	98.4	639
67期末(2019年2月8日)	5,540	80	5.2	14,442	3.7	77.63	△ 0.1	—	98.5	650
68期末(2019年3月8日)	5,543	50	1.0	14,743	2.1	78.26	0.8	0.0	98.6	642
69期末(2019年4月8日)	5,819	50	5.9	14,965	1.5	79.07	1.0	—	98.5	659
70期末(2019年5月8日)	5,509	50	△ 4.5	14,726	△ 1.6	77.27	△ 2.3	—	98.5	589
71期末(2019年6月10日)	5,135	50	△ 5.9	14,105	△ 4.2	75.84	△ 1.9	—	98.5	473
72期末(2019年7月8日)	5,331	50	4.8	14,659	3.9	75.75	△ 0.1	—	99.3	471
73期末(2019年8月8日)	4,707	50	△ 10.8	13,806	△ 5.8	71.70	△ 5.3	—	98.3	408
74期末(2019年9月9日)	4,938	50	6.0	14,149	2.5	73.15	2.0	—	98.4	426
75期末(2019年10月8日)	4,840	50	△ 1.0	14,477	2.3	72.29	△ 1.2	—	98.5	402
76期末(2019年11月8日)	5,408	50	12.8	15,631	8.0	75.34	4.2	—	97.1	436
77期末(2019年12月9日)	5,302	50	△ 1.0	15,771	0.9	74.21	△ 1.5	—	98.9	401
78期末(2020年1月8日)	5,326	50	1.4	15,879	0.7	73.93	△ 0.4	—	98.6	391
79期末(2020年2月10日)	5,188	50	△ 1.7	15,944	0.4	73.27	△ 0.9	—	98.7	379
80期末(2020年3月9日)	4,212	50	△ 17.8	13,544	△ 15.0	67.44	△ 8.0	—	98.4	305
81期末(2020年4月8日)	3,798	50	△ 8.6	12,916	△ 4.6	66.72	△ 1.1	—	98.4	275
82期末(2020年5月8日)	3,868	50	3.2	13,133	1.7	69.42	4.0	—	99.2	281
83期末(2020年6月8日)	4,705	50	22.9	14,842	13.0	76.45	10.1	—	98.9	338

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) TOPIXは、当ファンド設定日を10,000として大和アセットマネジメントが計算したものです。また、基準価額への反映を考慮して、1営業日前の日付の終値を採用しています。

(注3) 為替レートは、計算日における対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートを採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

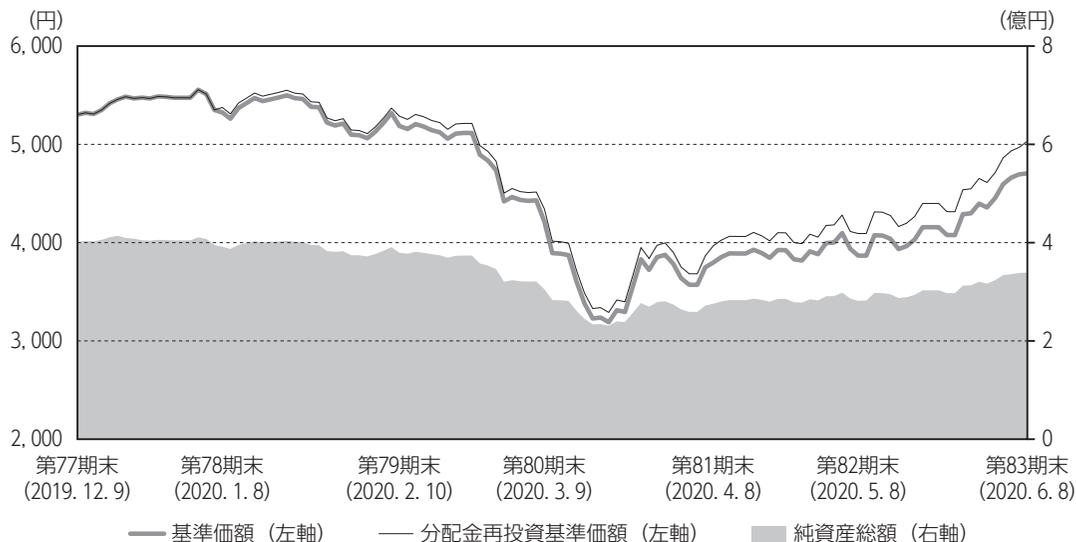
(注5) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注6) 公社債組入比率は新株予約権付社債券(転換社債券)および債券先物を除きます。



運用経過

基準価額等の推移について



* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

■ 基準価額・騰落率

第78期首：5,302円

第83期末：4,705円（既払分配金300円）

騰落率：△5.1%（分配金再投資ベース）

■ 基準価額の主な変動要因

日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略による運用と為替取引の結果、基準価額は下落しました。株式ポートフォリオ（配当込み）が下落したことがマイナス要因となりました。また、オプション取引戦略については小幅にマイナスとなりました。為替取引（日本円売り／豪ドル買い）は、豪ドルが対円で上昇（円安）したことやプレミアム（金利差相当分の収益）がプラス要因となりました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ダイワ日本株ストラテジーα (通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ- 豪ドル・コース (毎月分配型)

	年 月 日	基 準 価 額		T O P I X		豪ドル為替レート		公 社 債 組入比率	投資信託 受益証券 組入比率
		円	騰落率	(参考指数)	騰落率	(参考指数)	騰落率		
第78期	(期首) 2019年12月9日	5,302	—	15,771	—	74.21	—	—	98.9
	12月末	5,557	4.8	15,953	1.2	76.52	3.1	—	99.2
	(期末) 2020年1月8日	5,376	1.4	15,879	0.7	73.93	△ 0.4	—	98.6
第79期	(期首) 2020年1月8日	5,326	—	15,879	—	73.93	—	—	98.6
	1月末	5,099	△ 4.3	15,416	△ 2.9	73.29	△ 0.9	—	98.8
	(期末) 2020年2月10日	5,238	△ 1.7	15,944	0.4	73.27	△ 0.9	—	98.7
第80期	(期首) 2020年2月10日	5,188	—	15,944	—	73.27	—	—	98.7
	2月末	4,737	△ 8.7	14,434	△ 9.5	71.94	△ 1.8	—	97.8
	(期末) 2020年3月9日	4,262	△ 17.8	13,544	△ 15.0	67.44	△ 8.0	—	98.4
第81期	(期首) 2020年3月9日	4,212	—	13,544	—	67.44	—	—	98.4
	3月末	3,876	△ 8.0	13,214	△ 2.4	66.09	△ 2.0	—	98.4
	(期末) 2020年4月8日	3,848	△ 8.6	12,916	△ 4.6	66.72	△ 1.1	—	98.4
第82期	(期首) 2020年4月8日	3,798	—	12,916	—	66.72	—	—	98.4
	4月末	4,001	5.3	13,339	3.3	69.84	4.7	—	98.3
	(期末) 2020年5月8日	3,918	3.2	13,133	1.7	69.42	4.0	—	99.2
第83期	(期首) 2020年5月8日	3,868	—	13,133	—	69.42	—	—	99.2
	5月末	4,397	13.7	14,519	10.6	71.35	2.8	—	99.3
	(期末) 2020年6月8日	4,755	22.9	14,842	13.0	76.45	10.1	—	98.9

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

（2019. 12. 10 ～ 2020. 6. 8）

■国内株式市況

国内株式市況は下落しました。

国内株式市況は、当作成期首より、米中通商協議の進展や英国選挙での与党の勝利などにより、上昇基調で始まりました。しかし2020年1月下旬に、中国において新型コロナウイルスの感染拡大が懸念され株価が下落したことに続き、2月中旬からは新型コロナウイルスの感染が欧米に拡大し、各国の非常事態宣言や外出禁止令などにより実体経済への懸念が高まると、世界的に株価は下落しました。その後、各国の中央銀行による金融緩和策の発表や欧米での感染拡大が落ち着きをみせたことで、経済活動再開への期待から株価は当作成期末にかけて反発しました。

■為替相場

豪ドルは対円で上昇しました。

豪ドルの対円為替相場は、当作成期首より上昇してスタートしましたが、2020年1月後半からは、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により市場のリスク回避姿勢が強まり、下落しました。その後は、感染拡大に落ち着きが見られたことや経済活動再開への期待から市場のリスク選好度が回復し、当作成期首を上回る水準まで上昇しました。

■短期金利市況

オーストラリアの短期金利は、RBA（オーストラリア準備銀行）が政策金利を0.75%から0.25%に引き下げました。一方、日本の短期金利は、日銀が「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を維持し、低位で推移しました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■当ファンド

今後も、クロッキーファンド（豪ドル・クラス）とダイワ・マネーストック・マザーファンドに投資します。また、クロッキーファンド（豪ドル・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

※クロッキーファンド（豪ドル・クラス）：オージェンタム・トラスト・クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（豪ドル・クラス）

■クロッキーファンド（豪ドル・クラス）

1. 主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築します。

- ・投資対象銘柄は「TOP I X100」構成銘柄から金融セクターに属する銘柄を除いた銘柄とします。
 - ・ドイツ銀行グループが独自に開発した株式分析手法「クロッキーモデル」を用い、会計データを重点分析し、割安と判断される30銘柄を選定します。
 - ・選定時における各銘柄の構成比率はおおむね均等とします。また、銘柄の見直しは約1カ月ごとに行います。
 - ・個別銘柄ごとに、コール・オプションを売却することでカバードコール戦略を構築します。
2. 為替取引を活用します。
- 日本円売り／豪ドル買いの為替取引を行います。

■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

ポートフォリオについて

(2019.12.10 ~ 2020.6.8)

■当ファンド

当ファンドは、クロッキーファンド (豪ドル・クラス) とダイワ・マネースtock・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。当作成期は、クロッキーファンド (豪ドル・クラス) への投資割合を高位に維持することをめざしました。

■クロッキーファンド (豪ドル・クラス)

株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略のうち、クロッキーモデルによる銘柄選択効果が若干プラスに働き、株式ポートフォリオ (配当除く) はTOP I X指数 (配当除く) を若干上回るパフォーマンスとなりました。一方、オプション取引戦略については、想定していたオプションプレミアムは獲得したものの、一部銘柄において権利行使価格を上回る株価の上昇が発生したことなどがマイナス要因となりました。結果としてオプション取引戦略は小幅にマイナスとなりました。

株式とオプション取引の組み合わせで寄与度が高かった銘柄は、大塚ホールディングス (医薬品)、スズキ (輸送用機器)、小野薬品工業 (医薬品)、任天堂 (その他製品)、日立製作所 (電気機器) でした。また、寄与度が低かった銘柄は、西日本旅客鉄道 (陸運業)、住友商事 (卸売業)、旭化成 (化学)、三菱ケミカルホールディングス (化学)、いすゞ自動車 (輸送用機器) でした。

円建ての資産に対して、日本円売り／豪ドル買いの為替取引を行いました。

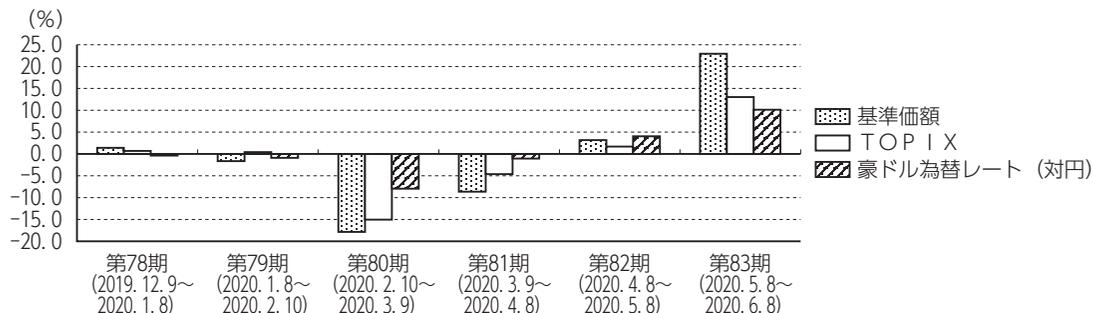
■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	第78期	第79期	第80期	第81期	第82期	第83期
	2019年12月10日 ～2020年1月8日	2020年1月9日 ～2020年2月10日	2020年2月11日 ～2020年3月9日	2020年3月10日 ～2020年4月8日	2020年4月9日 ～2020年5月8日	2020年5月9日 ～2020年6月8日
当期分配金(税込み) (円)	50	50	50	50	50	50
対基準価額比率 (%)	0.93	0.95	1.17	1.30	1.28	1.05
当期の収益 (円)	43	43	44	40	50	32
当期の収益以外 (円)	6	6	5	9	-	17
翌期繰越分配対象額 (円)	1,343	1,336	1,331	1,321	1,323	1,306

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

■収益分配金の計算過程（1万口当り）

項目	第78期	第79期	第80期	第81期	第82期	第83期
(a) 経費控除後の配当等収益	✓ 43.01円	✓ 43.17円	✓ 44.08円	✓ 40.75円	✓ 52.05円	✓ 32.19円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(c) 収益調整金	803.59	806.03	807.34	810.91	812.31	814.17
(d) 分配準備積立金	✓ 547.01	✓ 537.69	✓ 529.58	✓ 520.22	509.59	✓ 509.78
(e) 当期分配対象額 (a+b+c+d)	1,393.62	1,386.90	1,381.01	1,371.90	1,373.95	1,356.16
(f) 分配金	50.00	50.00	50.00	50.00	50.00	50.00
(g) 翌期繰越分配対象額 (e-f)	1,343.62	1,336.90	1,331.01	1,321.90	1,323.95	1,306.16

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



今後の運用方針

■当ファンド

今後も、クロッキーファンド（豪ドル・クラス）とダイワ・マネースtock・マザーファンドに投資します。また、クロッキーファンド（豪ドル・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

■クロッキーファンド（豪ドル・クラス）

- 主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築します。
 - 投資対象銘柄は「TOP 1 X 100」構成銘柄から金融セクターに属する銘柄を除いた銘柄とします。
 - ドイツ銀行グループが独自に開発した株式分析手法「クロッキーモデル」を用い、会計データを重点分析し、割安と判断される30銘柄を選定します。
 - 選定時における各銘柄の構成比率はおおむね均等とします。また、銘柄の見直しは約1カ月ごとに行います。
 - 個別銘柄ごとに、コール・オプションを売却することでカバードコール戦略を構築します。
- 為替取引を活用します。

日本円売り／豪ドル買いの為替取引を行います。

■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

1万口当りの費用の明細

項 目	第78期～第83期 (2019. 12. 10～2020. 6. 8)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	34円	0.741%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は4,558円です。
（投 信 会 社）	(12)	(0.263)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
（販 売 会 社）	(21)	(0.465)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	(1)	(0.013)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0.003	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ そ の 他 ）	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	34	0.744	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

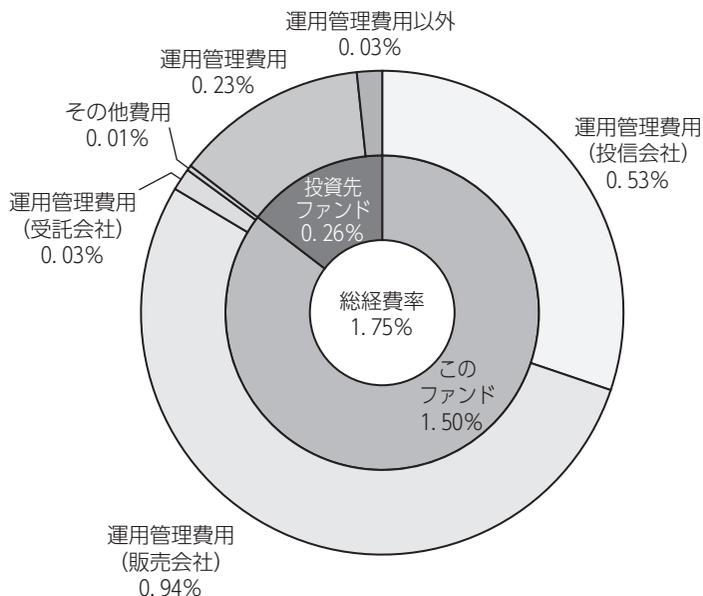
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.75%です。



総経費率（①＋②＋③）	1.75%
①このファンドの費用の比率	1.50%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.23%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.03%

(注1) ①の費用は、1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■売買および取引の状況

投資信託受益証券

(2019年12月10日から2020年6月8日まで)

決算期	第 78 期 ~ 第 83 期			
	買 付		売 付	
	口 数	金 額	口 数	金 額
外国 (邦貨建)	千口 452.113483	千円 20,389	千口 867.59804	千円 43,000

(注1) 買付は、外国投資信託から支払われた分配金による再投資分を含みます。

(注2) 金額は受渡し代金。

(注3) 金額の単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

投資信託受益証券

(2019年12月10日から2020年6月8日まで)

銘柄	第 78 期 ~			第 83 期		
	買 付			売 付		
	口 数	金 額	平均単価	口 数	金 額	平均単価
	千口	千円	円	千口	千円	円
CROCI JAPAN STRATEGY FUND AUD CLASS (ケイマン諸島)	867.59804	43,000	49			

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

(1) ファンド・オブ・ファンズが組み入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	第 83 期 末		
	口 数	評価額	比 率
外国投資信託受益証券 (ケイマン諸島) CROCI JAPAN STRATEGY FUND AUD CLASS	千口 6,901.059122	千円 335,143	% 98.9

(注1) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注2) 評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種 類	第77期末	第 83 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	千口 99	千口 99	千円 99

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2020年6月8日現在

項 目	第 83 期 末	
	評 価 額	比 率
投資信託受益証券	千円 335,143	% 96.9
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	99	0.0
コール・ローン等、その他	10,510	3.1
投資信託財産総額	345,752	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

ダイワ日本株ストラテジーα (通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ- 豪ドル・コース (毎月分配型)

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2020年1月8日)、(2020年2月10日)、(2020年3月9日)、(2020年4月8日)、(2020年5月8日)、(2020年6月8日)現在

項目	第78期末	第79期末	第80期末	第81期末	第82期末	第83期末
(A) 資産	397,934,954円	385,545,353円	309,316,521円	279,615,075円	286,430,932円	345,752,914円
コール・ローン等	11,584,152	11,068,776	8,849,603	8,294,756	5,044,700	10,510,059
投資信託受益証券 (評価額)	386,250,962	374,376,747	300,367,088	271,220,489	279,286,413	335,143,035
ダイワ・マネーストック・マザーファンド (評価額)	99,840	99,830	99,830	99,830	99,820	99,820
未収入金	—	—	—	—	1,999,999	—
(B) 負債	6,309,814	6,352,430	4,039,802	3,957,033	5,000,458	6,824,956
未払金	—	—	—	—	1,000,000	—
未払収益分配金	3,676,322	3,654,419	3,624,060	3,628,906	3,638,074	3,601,813
未払解約金	2,133,600	2,166,785	—	—	—	2,822,234
未払信託報酬	497,153	525,590	407,859	318,491	350,808	387,190
その他未払費用	2,739	5,636	7,883	9,636	11,576	13,719
(C) 純資産総額 (A - B)	391,625,140	379,192,923	305,276,719	275,658,042	281,430,474	338,927,958
元本	735,264,428	730,883,821	724,812,090	725,781,253	727,614,924	720,362,788
次期繰越損益金	△ 343,639,288	△ 351,690,898	△ 419,535,371	△ 450,123,211	△ 446,184,450	△ 381,434,830
(D) 受益権総口数	735,264,428口	730,883,821口	724,812,090口	725,781,253口	727,614,924口	720,362,788口
1万口当り基準価額 (C/D)	5,326円	5,188円	4,212円	3,798円	3,868円	4,705円

*第77期末における元本額は757,026,079円、当作成期間 (第78期～第83期) 中における追加設定元本額は15,823,597円、同解約元本額は52,486,888円です。

*第83期末の計算口数当りの純資産額は4,705円です。

*第83期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は381,434,830円です。

■損益の状況

第78期 自 2019年12月10日 至 2020年1月8日

第80期 自 2020年2月11日 至 2020年3月9日

第82期 自 2020年4月9日 至 2020年5月8日

第79期 自 2020年1月9日 至 2020年2月10日

第81期 自 2020年3月10日 至 2020年4月8日

第83期 自 2020年5月9日 至 2020年6月8日

項目	第78期	第79期	第80期	第81期	第82期	第83期
(A) 配当等収益	3,453,482円	3,684,342円	3,605,186円	3,278,002円	3,940,627円	2,333,650円
受取配当金	3,453,737	3,684,539	3,605,295	3,278,216	3,940,817	2,333,792
受取利息	—	—	—	9	6	—
支払利息	△ 255	△ 197	△ 109	△ 223	△ 196	△ 142
(B) 有価証券売買損益	2,476,824	△ 9,575,294	△ 70,323,553	△ 29,246,221	5,123,701	61,954,894
売買益	2,748,603	19,958	307,216	175,446	5,124,392	62,498,558
売買損	△ 271,779	△ 9,595,252	△ 70,630,769	△ 29,421,667	△ 691	△ 543,664
(C) 信託報酬等	△ 499,892	△ 528,487	△ 410,106	△ 320,244	△ 352,748	△ 389,338
(D) 当期損益金 (A + B + C)	5,430,414	△ 6,419,439	△ 67,128,473	△ 26,288,463	8,711,580	63,899,206
(E) 前期繰越損益金	△ 308,061,551	△ 303,171,527	△ 309,887,616	△ 378,646,753	△ 408,486,454	△ 397,936,519
(F) 追加信託差損益金	△ 37,331,829	△ 38,445,513	△ 38,895,222	△ 41,559,089	△ 42,771,502	△ 43,795,704
(配当等相当額)	(59,085,835)	(58,911,718)	(58,517,678)	(58,855,006)	(59,104,979)	(58,650,417)
(売買損益相当額)	(△ 96,417,664)	(△ 97,357,231)	(△ 97,412,900)	(△ 100,414,095)	(△ 101,876,481)	(△ 102,446,121)
(G) 合計 (D + E + F)	△ 339,962,966	△ 348,036,479	△ 415,911,311	△ 446,494,305	△ 442,546,376	△ 377,833,017
(H) 収益分配金	△ 3,676,322	△ 3,654,419	△ 3,624,060	△ 3,628,906	△ 3,638,074	△ 3,601,813
次期繰越損益金 (G + H)	△ 343,639,288	△ 351,690,898	△ 419,535,371	△ 450,123,211	△ 446,184,450	△ 381,434,830
追加信託差損益金	△ 37,331,829	△ 38,445,513	△ 38,895,222	△ 41,559,089	△ 42,771,502	△ 43,795,704
(配当等相当額)	(59,085,835)	(58,911,718)	(58,517,678)	(58,855,006)	(59,104,979)	(58,650,417)
(売買損益相当額)	(△ 96,417,664)	(△ 97,357,231)	(△ 97,412,900)	(△ 100,414,095)	(△ 101,876,481)	(△ 102,446,121)
分派準備積立金	39,705,914	38,800,846	37,955,949	37,086,027	37,228,189	35,440,512
繰越損益金	△ 346,013,373	△ 352,046,231	△ 418,596,098	△ 445,650,149	△ 440,641,137	△ 373,079,638

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程 (総額)」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	第78期	第79期	第80期	第81期	第82期	第83期
(a) 経費控除後の配当等収益	3,162,394円	3,155,855円	3,195,080円	2,957,757円	3,787,286円	2,319,517円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0	0	0	0	0	0
(c) 収益調整金	59,085,835	58,911,718	58,517,678	58,855,006	59,104,979	58,650,417
(d) 分配準備積立金	40,219,842	39,299,410	38,384,929	37,757,176	37,078,977	36,722,808
(e) 当期分配対象額 (a+b+c+d)	102,468,071	101,366,983	100,097,687	99,569,939	99,971,242	97,692,742
(f) 分配金	3,676,322	3,654,419	3,624,060	3,628,906	3,638,074	3,601,813
(g) 翌期繰越分配対象額 (e-f)	98,791,749	97,712,564	96,473,627	95,941,033	96,333,168	94,090,929
(h) 受益権総口数	735,264,428□	730,883,821□	724,812,090□	725,781,253□	727,614,924□	720,362,788□

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ						
1 万口当り分配金	第78期	第79期	第80期	第81期	第82期	第83期
		50円	50円	50円	50円	50円

●〈分配金再投資コース〉をご利用の方の税引き分配金は、決算日現在の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

《お知らせ》

■商号変更について

大和証券投資信託委託株式会社は、2020年4月1日付で、商号を「大和アセットマネジメント株式会社」に変更いたしました。

ブラジル・リアル・コース (毎月分配型)

最近30期の運用実績

決算期	基準価額			TOPIX		ブラジル・リアル 為替レート		公社債 組入比率	投資信託 受益証券 組入比率	純資産 総額
	(分配落)	税込み 分配金	期中 騰落率	(参考指数)	期中 騰落率	(参考指数)	期中 騰落率			
	円	円	%		%	円	%	%	%	百万円
54期末(2018年1月9日)	6,585	100	6.7	17,308	5.3	34.95	1.6	—	98.9	8,377
55期末(2018年2月8日)	5,916	100	△ 8.6	16,107	△ 6.9	33.42	△ 4.4	—	98.6	7,180
56期末(2018年3月8日)	5,485	100	△ 5.6	15,684	△ 2.6	32.72	△ 2.1	—	98.5	6,632
57期末(2018年4月9日)	5,323	100	△ 1.1	15,826	0.9	31.72	△ 3.1	—	98.5	6,408
58期末(2018年5月8日)	5,210	100	△ 0.2	16,322	3.1	30.67	△ 3.3	—	99.3	6,103
59期末(2018年6月8日)	4,664	100	△ 8.6	16,467	0.9	28.11	△ 8.3	—	98.7	5,427
60期末(2018年7月9日)	4,347	100	△ 4.7	15,570	△ 5.4	28.60	1.7	0.0	99.0	5,025
61期末(2018年8月8日)	4,744	100	11.4	16,072	3.2	29.69	3.8	0.0	98.2	5,372
62期末(2018年9月10日)	4,101	70	△ 12.1	15,504	△ 3.5	27.35	△ 7.9	—	98.9	4,586
63期末(2018年10月9日)	4,596	70	13.8	16,501	6.4	29.90	9.3	—	98.8	5,022
64期末(2018年11月8日)	4,323	70	△ 4.4	15,210	△ 7.8	30.39	1.6	—	99.4	4,655
65期末(2018年12月10日)	4,056	70	△ 4.6	14,916	△ 1.9	28.81	△ 5.2	—	98.3	4,292
66期末(2019年1月8日)	3,766	70	△ 5.4	13,922	△ 6.7	29.14	1.1	—	99.0	3,953
67期末(2019年2月8日)	3,897	70	5.3	14,442	3.7	29.54	1.4	—	98.3	4,047
68期末(2019年3月8日)	3,796	40	△ 1.6	14,743	2.1	28.77	△ 2.6	0.0	98.7	3,923
69期末(2019年4月8日)	3,961	40	5.4	14,965	1.5	28.77	0.0	—	98.8	3,834
70期末(2019年5月8日)	3,686	40	△ 5.9	14,726	△ 1.6	27.75	△ 3.5	—	99.2	3,372
71期末(2019年6月10日)	3,554	40	△ 2.5	14,105	△ 4.2	27.95	0.7	—	99.2	3,077
72期末(2019年7月8日)	3,748	40	6.6	14,659	3.9	28.40	1.6	—	98.6	3,147
73期末(2019年8月8日)	3,280	40	△ 11.4	13,806	△ 5.8	26.71	△ 6.0	—	98.0	2,746
74期末(2019年9月9日)	3,311	40	2.2	14,149	2.5	26.33	△ 1.4	—	98.7	2,685
75期末(2019年10月8日)	3,295	40	0.7	14,477	2.3	26.14	△ 0.7	—	98.3	2,565
76期末(2019年11月8日)	3,592	40	10.2	15,631	8.0	26.66	2.0	—	96.7	2,683
77期末(2019年12月9日)	3,478	40	△ 2.1	15,771	0.9	26.23	△ 1.6	—	97.3	2,549
78期末(2020年1月8日)	3,543	40	3.0	15,879	0.7	26.52	1.1	—	98.1	2,530
79期末(2020年2月10日)	3,357	40	△ 4.1	15,944	0.4	25.38	△ 4.3	—	99.0	2,308
80期末(2020年3月9日)	2,517	40	△ 23.8	13,544	△ 15.0	22.05	△ 13.1	—	98.2	1,720
81期末(2020年4月8日)	2,116	40	△ 14.3	12,916	△ 4.6	20.80	△ 5.7	—	98.4	1,435
82期末(2020年5月8日)	1,813	40	△ 12.4	13,133	1.7	18.22	△ 12.4	—	99.6	1,218
83期末(2020年6月8日)	2,451	40	37.4	14,842	13.0	22.07	21.1	—	99.3	1,639

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) TOPIXは、当ファンド設定日を10,000として大和アセットマネジメントが計算したものです。また、基準価額への反映を考慮して、1営業日前の日付の終値を採用しています。

(注3) 為替レートは、計算日における対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートを採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

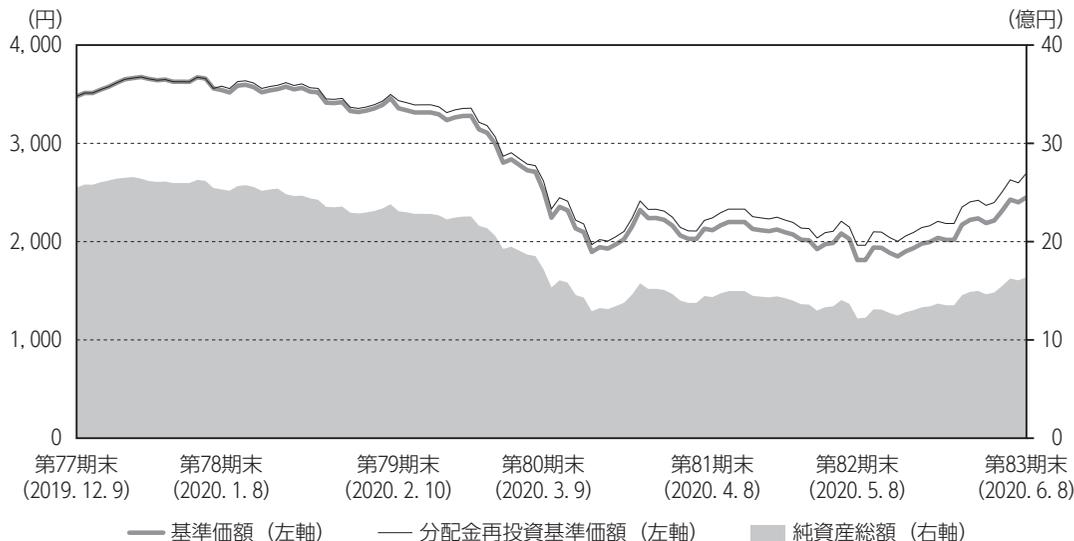
(注5) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注6) 公社債組入比率は新株予約権付社債券(転換社債券)および債券先物を除きます。



運用経過

基準価額等の推移について



* 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります (分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります)。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

基準価額・騰落率

第78期首：3,478円

第83期末：2,451円 (既払分配金240円)

騰落率：△22.5% (分配金再投資ベース)

基準価額の主な変動要因

日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略による運用と為替取引の結果、基準価額は下落しました。株式ポートフォリオ (配当込み) が下落したことがマイナス要因となりました。また、オプション取引戦略については小幅にマイナスとなりました。為替取引 (日本円売り/ブラジル・リアル買い) は、ブラジル・リアルが対円で下落 (円高) したことがマイナス要因となったものの、プレミアム (金利差相当分の収益) がプラス要因となりました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ダイワ日本株ストラテジーα (通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ- ブラジル・リアル・コース (毎月分配型)

	年 月 日	基 準 価 額		T O P I X		ブラジル・リアル 為 替 レ ー ト		公 社 債 組 入 比 率	投 資 信 託 受 益 証 券 組 入 比 率
		円	%	(参考指数)	騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率		
第78期	(期首) 2019年12月9日	3,478	—	15,771	—	26.23	—	—	97.3
	12月末	3,672	5.6	15,953	1.2	27.04	3.1	—	99.9
	(期末) 2020年1月8日	3,583	3.0	15,879	0.7	26.52	1.1	—	98.1
第79期	(期首) 2020年1月8日	3,543	—	15,879	—	26.52	—	—	98.1
	1月末	3,330	△ 6.0	15,416	△ 2.9	25.66	△ 3.2	—	98.9
	(期末) 2020年2月10日	3,397	△ 4.1	15,944	0.4	25.38	△ 4.3	—	99.0
第80期	(期首) 2020年2月10日	3,357	—	15,944	—	25.38	—	—	99.0
	2月末	2,996	△ 10.8	14,434	△ 9.5	24.36	△ 4.0	—	98.5
	(期末) 2020年3月9日	2,557	△ 23.8	13,544	△ 15.0	22.05	△ 13.1	—	98.2
第81期	(期首) 2020年3月9日	2,517	—	13,544	—	22.05	—	—	98.2
	3月末	2,222	△ 11.7	13,214	△ 2.4	20.92	△ 5.1	—	98.7
	(期末) 2020年4月8日	2,156	△ 14.3	12,916	△ 4.6	20.80	△ 5.7	—	98.4
第82期	(期首) 2020年4月8日	2,116	—	12,916	—	20.80	—	—	98.4
	4月末	1,987	△ 6.1	13,339	3.3	20.01	△ 3.8	—	98.9
	(期末) 2020年5月8日	1,853	△ 12.4	13,133	1.7	18.22	△ 12.4	—	99.6
第83期	(期首) 2020年5月8日	1,813	—	13,133	—	18.22	—	—	99.6
	5月末	2,236	23.3	14,519	10.6	19.87	9.1	—	99.1
	(期末) 2020年6月8日	2,491	37.4	14,842	13.0	22.07	21.1	—	99.3

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

（2019. 12. 10 ～ 2020. 6. 8）

■国内株式市況

国内株式市況は下落しました。

国内株式市況は、当作成期首より、米中通商協議の進展や英国選挙での与党の勝利などにより、上昇基調で始まりました。しかし2020年1月下旬に、中国において新型コロナウイルスの感染拡大が懸念され株価が下落したことに続き、2月中旬からは新型コロナウイルスの感染が欧米に拡大し、各国の非常事態宣言や外出禁止令などにより実体経済への懸念が高まると、世界的に株価は下落しました。その後、各国の中央銀行による金融緩和策の発表や欧米での感染拡大が落ち着きをみせたことで、経済活動再開への期待から株価は当作成期末にかけて反発しました。

■為替相場

ブラジル・リアルは対円で下落しました。

ブラジル・リアルの対円為替相場は、当作成期首よりおおむね横ばいで推移しました。2020年1月後半からは、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により市場のリスク回避姿勢が強まり、下落しました。ウイルスの感染状況が深刻であることや政治不信、さらには利下げの影響などもあり、他の新興国通貨と比べても大きく売られる展開となりました。

■短期金利市況

ブラジルの短期金利は、ブラジル中央銀行が政策金利を5.00%から3.00%に引き下げました。一方、日本の短期金利は、日銀が「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を維持し、低位で推移しました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■当ファンド

今後も、クロッキーファンド（ブラジル・リアル・クラス）とダイワ・マネーストック・マザーファンドに投資します。また、クロッキーファンド（ブラジル・リアル・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

※クロッキーファンド（ブラジル・リアル・クラス）：オージェンタム・トラスト・クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（ブラジル・リアル・クラス）

■クロッキーファンド（ブラジル・リアル・クラス）

1. 主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築します。

- ・投資対象銘柄は「TOP I X100」構成銘柄から金融セクターに属する銘柄を除いた銘柄とします。
 - ・ドイツ銀行グループが独自に開発した株式分析手法「クロッキーモデル」を用い、会計データを重点分析し、割安と判断される30銘柄を選定します。
 - ・選定時における各銘柄の構成比率はおおむね均等とします。また、銘柄の見直しは約1カ月ごとに行います。
 - ・個別銘柄ごとに、コール・オプションを売却することでカバードコール戦略を構築します。
2. 為替取引を活用します。
日本円売り／ブラジル・リアル買いの為替取引を行います。

■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

ポートフォリオについて

(2019. 12. 10 ~ 2020. 6. 8)

■当ファンド

当ファンドは、クロッキーファンド（ブラジル・リアル・クラス）とダイワ・マネースtock・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。当作成期は、クロッキーファンド（ブラジル・リアル・クラス）への投資割合を高位に維持することをめざしました。

■クロッキーファンド（ブラジル・リアル・クラス）

株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略のうち、クロッキーモデルによる銘柄選択効果が若干プラスに働き、株式ポートフォリオ（配当除く）はTOP I X指数（配当除く）を若干上回るパフォーマンスとなりました。一方、オプション取引戦略については、想定していたオプションプレミアムは獲得したものの、一部銘柄において権利行使価格を上回る株価の上昇が発生したことなどがマイナス要因となりました。結果としてオプション取引戦略は小幅にマイナスとなりました。

株式とオプション取引の組み合わせで寄与度が高かった銘柄は、大塚ホールディングス（医薬品）、スズキ（輸送用機器）、小野薬品工業（医薬品）、任天堂（その他製品）、日立製作所（電気機器）でした。また、寄与度が低かった銘柄は、西日本旅客鉄道（陸運業）、住友商事（卸売業）、旭化成（化学）、三菱ケミカルホールディングス（化学）、いすゞ自動車（輸送用機器）でした。

円建ての資産に対して、日本円売り／ブラジル・リアル買いの為替取引を行いました。

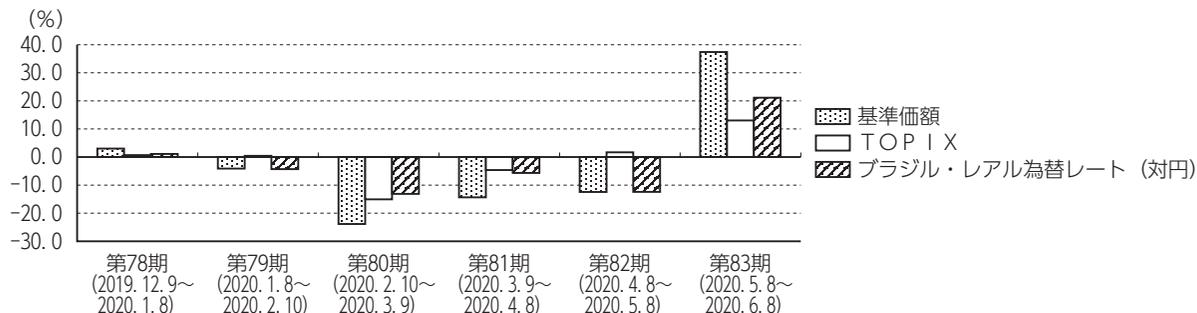
■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	第78期	第79期	第80期	第81期	第82期	第83期
	2019年12月10日 ～2020年1月8日	2020年1月9日 ～2020年2月10日	2020年2月11日 ～2020年3月9日	2020年3月10日 ～2020年4月8日	2020年4月9日 ～2020年5月8日	2020年5月9日 ～2020年6月8日
当期分配金(税込み) (円)	40	40	40	40	40	40
対基準価額比率 (%)	1.12	1.18	1.56	1.86	2.16	1.61
当期の収益 (円)	39	38	36	35	34	23
当期の収益以外 (円)	0	1	3	4	5	16
翌期繰越分配対象額 (円)	1,174	1,172	1,169	1,164	1,159	1,143

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

■収益分配金の計算過程（1万口当り）

項目	第78期	第79期	第80期	第81期	第82期	第83期
(a) 経費控除後の配当等収益	✓ 39.16円	✓ 38.19円	✓ 36.98円	✓ 35.06円	✓ 34.73円	✓ 23.78円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(c) 収益調整金	1,039.56	1,040.07	1,040.34	1,040.73	1,041.24	1,042.00
(d) 分配準備積立金	✓ 135.87	✓ 134.54	✓ 132.48	✓ 129.09	✓ 123.67	✓ 117.65
(e) 当期分配対象額 (a+b+c+d)	1,214.61	1,212.82	1,209.81	1,204.89	1,199.65	1,183.44
(f) 分配金	40.00	40.00	40.00	40.00	40.00	40.00
(g) 翌期繰越分配対象額 (e-f)	1,174.61	1,172.82	1,169.81	1,164.89	1,159.65	1,143.44

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



今後の運用方針

■当ファンド

今後も、クロッキーファンド（ブラジル・リアル・クラス）とダイワ・マネースtock・マザーファンドに投資します。また、クロッキーファンド（ブラジル・リアル・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

■クロッキーファンド（ブラジル・リアル・クラス）

- 主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築します。
 - 投資対象銘柄は「TOP 1 X 100」構成銘柄から金融セクターに属する銘柄を除いた銘柄とします。
 - ドイツ銀行グループが独自に開発した株式分析手法「クロッキーモデル」を用い、会計データを重点分析し、割安と判断される30銘柄を選定します。
 - 選定時における各銘柄の構成比率はおおむね均等とします。また、銘柄の見直しは約1カ月ごとに行います。
 - 個別銘柄ごとに、コール・オプションを売却することでカバードコール戦略を構築します。
- 為替取引を活用します。

日本円売り／ブラジル・リアル買いの為替取引を行います。

■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

1万口当りの費用の明細

項 目	第78期～第83期 (2019. 12. 10～2020. 6. 8)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	20円	0. 740%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は2, 740円です。
(投 信 会 社)	(7)	(0. 262)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(13)	(0. 465)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(0)	(0. 012)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0. 003	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0. 003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0. 000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	20	0. 743	

(注 1) 当作成期中の費用 (消費税のかかるものは消費税を含む) は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注 2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

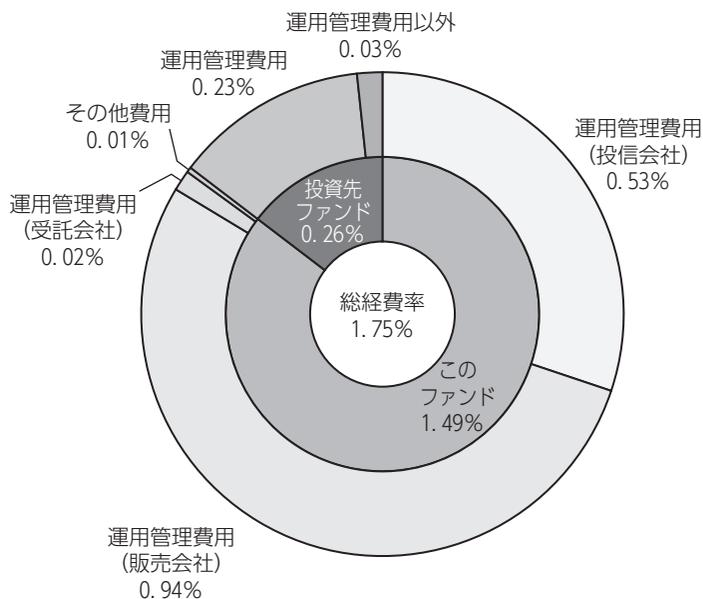
(注 3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注 4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券 (マザーファンドを除く。) がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.75%です。



総経費率（①＋②＋③）	1.75%
①このファンドの費用の比率	1.49%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.23%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.03%

(注1) ①の費用は、1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■売買および取引の状況
投資信託受益証券

(2019年12月10日から2020年6月8日まで)

決算期	第 78 期 ~ 第 83 期			
	買 付		売 付	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
外国 (邦貨建)	千口 5,792.384593	千円 154,087	千口 11,375.501007	千円 326,000

(注1) 買付は、外国投資信託から支払われた分配金による再投資分を含みます。

(注2) 金額は受渡し代金。

(注3) 金額の単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄
投資信託受益証券

(2019年12月10日から2020年6月8日まで)

第 78 期 ~				第 83 期			
買 付		売 付		買 付		売 付	
銘 柄	□ 数	金 額	平均単価	銘 柄	□ 数	金 額	平均単価
	千口	千円	円		千口	千円	円
				CROCI JAPAN STRATEGY FUND BRL CLASS (ケイマン諸島)	11,375.501007	326,000	28

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

(1) ファンド・オブ・ファンズが組み入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	第 83 期 末		
	□ 数	評価額	比 率
外国投資信託受益証券 (ケイマン諸島) CROCI JAPAN STRATEGY FUND BRL CLASS	千口 65,049.94735	千円 1,628,330	% 99.3

(注1) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注2) 評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種 類	第77期末	第 83 期 末	
	□ 数	□ 数	評 価 額
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	千口 398	千口 398	千円 399

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2020年6月8日現在

項 目	第 83 期 末	
	評 価 額	比 率
投資信託受益証券	千円 1,628,330	% 97.6
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	399	0.0
コール・ローン等、その他	39,757	2.4
投資信託財産総額	1,668,486	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2020年1月8日)、(2020年2月10日)、(2020年3月9日)、(2020年4月8日)、(2020年5月8日)、(2020年6月8日)現在

項目	第78期末	第79期末	第80期末	第81期末	第82期末	第83期末
(A) 資産	2,568,399,276円	2,344,162,438円	1,757,738,884円	1,464,726,815円	1,278,807,396円	1,668,486,799円
コール・ローン等	85,172,133	58,558,514	68,282,211	51,148,663	15,479,535	39,757,235
投資信託受益証券 (評価額)	2,482,827,781	2,285,204,602	1,689,057,351	1,413,178,830	1,212,928,580	1,628,330,282
ダイワ・マネーストック・マザーファンド (評価額)	399,362	399,322	399,322	399,322	399,282	399,282
未収入金	—	—	—	—	49,999,999	—
(B) 負債	37,571,678	35,682,466	37,361,856	28,975,233	60,546,639	28,691,133
未払金	—	—	—	—	25,000,000	—
未払収益分配金	28,573,644	27,509,050	27,335,135	27,143,848	26,877,291	26,764,559
未払解約金	5,788,256	4,856,383	7,532,766	5,180	6,869,302	93,560
未払信託報酬	3,192,123	3,281,230	2,444,632	1,767,090	1,731,316	1,754,492
その他未払費用	17,655	35,803	49,323	59,115	68,730	78,522
(C) 純資産総額 (A - B)	2,530,827,598	2,308,479,972	1,720,377,028	1,435,751,582	1,218,260,757	1,639,795,666
元本	7,143,411,018	6,877,262,573	6,833,783,804	6,785,962,229	6,719,322,785	6,691,139,834
次期繰越損益金	△ 4,612,583,420	△ 4,568,782,601	△ 5,113,406,776	△ 5,350,210,647	△ 5,501,062,028	△ 5,051,344,168
(D) 受益権総口数	7,143,411,018口	6,877,262,573口	6,833,783,804口	6,785,962,229口	6,719,322,785口	6,691,139,834口
1万口当り基準価額 (C/D)	3,543円	3,357円	2,517円	2,116円	1,813円	2,451円

* 第77期末における元本額は7,332,364,687円、当作成期間 (第78期～第83期) 中における追加設定元本額は159,398,038円、同解約元本額は800,622,891円です。

* 第83期末の計算口数当りの純資産額は2,451円です。

* 第83期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は5,051,344,168円です。

■損益の状況

第78期 自 2019年12月10日 至 2020年1月8日 第80期 自 2020年2月11日 至 2020年3月9日 第82期 自 2020年4月9日 至 2020年5月8日

第79期 自 2020年1月9日 至 2020年2月10日 第81期 自 2020年3月10日 至 2020年4月8日 第83期 自 2020年5月9日 至 2020年6月8日

項目	第78期	第79期	第80期	第81期	第82期	第83期
(A) 配当等収益	29,180,678円	29,569,176円	27,733,162円	25,572,508円	25,077,933円	15,978,032円
受取配当金	29,182,010	29,570,808	27,733,785	25,573,821	25,078,877	15,978,558
受取利息	10	29	—	41	18	—
支払利息	△ 1,342	△ 1,661	△ 623	△ 1,354	△ 962	△ 526
(B) 有価証券売買損益	48,846,576	△ 126,833,935	△ 571,378,788	△ 269,062,593	△ 199,839,220	439,123,779
売買益	51,892,999	539,228	2,588,822	2,431,466	738,879	440,352,459
売買損	△ 3,046,423	△ 127,373,163	△ 573,967,610	△ 271,494,059	△ 200,578,099	△ 1,228,680
(C) 信託報酬等	△ 3,209,778	△ 3,299,378	△ 2,458,152	△ 1,776,882	△ 1,740,931	△ 1,764,310
(D) 当期損益金 (A + B + C)	74,817,476	△ 100,564,137	△ 546,103,778	△ 245,266,967	△ 176,502,218	453,337,501
(E) 前期繰越損益金	3,674,755,975	△ 3,480,366,548	△ 3,578,569,019	△ 4,111,126,827	△ 4,323,542,726	△ 4,479,049,512
(F) 追加信託差損益金	△ 984,071,277	△ 960,342,866	△ 961,398,844	△ 966,673,005	△ 974,139,793	△ 998,867,598
(配当等相当額)	(742,602,162)	(715,287,468)	(710,950,530)	(706,237,602)	(699,643,081)	(697,220,911)
(売買損益相当額)	(△ 1,726,673,439)	(△ 1,675,630,334)	(△ 1,672,349,374)	(△ 1,672,910,607)	(△ 1,673,782,874)	(△ 1,696,088,509)
(G) 合計 (D + E + F)	△ 4,584,009,776	△ 4,541,273,551	△ 5,086,071,641	△ 5,323,066,799	△ 5,474,184,737	△ 5,024,579,609
(H) 収益分配金	28,573,644	27,509,050	27,335,135	27,143,848	26,877,291	26,764,559
次期繰越損益金 (G + H)	△ 4,612,583,420	△ 4,568,782,601	△ 5,113,406,776	△ 5,350,210,647	△ 5,501,062,028	△ 5,051,344,168
追加信託差損益金	△ 984,071,277	△ 960,342,866	△ 961,398,844	△ 966,673,005	△ 974,139,793	△ 998,867,598
(配当等相当額)	(742,602,162)	(715,287,468)	(710,950,530)	(706,237,602)	(699,643,081)	(697,220,911)
(売買損益相当額)	(△ 1,726,673,439)	(△ 1,675,630,334)	(△ 1,672,349,374)	(△ 1,672,910,607)	(△ 1,673,782,874)	(△ 1,696,088,509)
分配準備積立金	96,470,294	91,292,325	88,476,479	84,257,097	79,563,615	67,873,757
繰越損益金	△ 3,724,982,437	△ 3,699,732,060	△ 4,240,484,411	△ 4,467,794,739	△ 4,606,485,850	△ 4,120,350,327

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程 (総額)」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	第78期	第79期	第80期	第81期	第82期	第83期
(a) 経費控除後の配当等収益	27,980,205円	26,269,789円	25,275,007円	23,795,614円	23,336,989円	15,916,094円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0	0	0	0	0	0
(c) 収益調整金	742,602,162	715,287,468	710,950,530	706,237,602	699,643,081	697,220,911
(d) 分配準備積立金	97,063,733	92,531,586	90,536,607	87,605,331	83,103,917	78,722,222
(e) 当期分配対象額 (a+b+c+d)	867,646,100	834,088,843	826,762,144	817,638,547	806,083,987	791,859,227
(f) 分配金	28,573,644	27,509,050	27,335,135	27,143,848	26,877,291	26,764,559
(g) 翌期繰越分配対象額 (e-f)	839,072,456	806,579,793	799,427,009	790,494,699	779,206,696	765,094,668
(h) 受益権総口数	7,143,411,018口	6,877,262,573口	6,833,783,804口	6,785,962,229口	6,719,322,785口	6,691,139,834口

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ						
1 万口当り分配金	第78期	第79期	第80期	第81期	第82期	第83期
		40円	40円	40円	40円	40円

●〈分配金再投資コース〉をご利用の方の税引き分配金は、決算日現在の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

《お知らせ》

■商号変更について

大和証券投資信託委託株式会社は、2020年4月1日付で、商号を「大和アセットマネジメント株式会社」に変更いたしました。

米ドル・コース (毎月分配型)

最近30期の運用実績

決算期	基準価額			TOPIX		米ドル為替レート		公社債組入比率	投資信託受益証券組入比率	純資産額
	(分配落)	税込み分配金	期中騰落率	(参考指数)	期中騰落率	(参考指数)	期中騰落率			
	円	円	%		%	円	%	%	%	百万円
54期末(2018年1月9日)	11,614	60	4.6	17,308	5.3	113.16	△ 0.1	—	100.2	5,749
55期末(2018年2月8日)	10,588	60	△ 8.3	16,107	△ 6.9	109.38	△ 3.3	—	98.4	5,224
56期末(2018年3月8日)	9,869	60	△ 6.2	15,684	△ 2.6	106.12	△ 3.0	—	98.6	4,840
57期末(2018年4月9日)	10,087	60	2.8	15,826	0.9	106.87	0.7	—	98.9	4,937
58期末(2018年5月8日)	10,501	60	4.7	16,322	3.1	108.91	1.9	—	99.8	5,037
59期末(2018年6月8日)	10,476	60	0.3	16,467	0.9	109.87	0.9	—	99.3	4,618
60期末(2018年7月9日)	9,940	60	△ 4.5	15,570	△ 5.4	110.49	0.6	0.0	98.7	4,097
61期末(2018年8月8日)	10,440	60	5.6	16,072	3.2	111.45	0.9	0.0	98.9	4,226
62期末(2018年9月10日)	9,965	60	△ 4.0	15,504	△ 3.5	110.93	△ 0.5	—	98.8	4,014
63期末(2018年10月9日)	10,754	60	8.5	16,501	6.4	112.97	1.8	—	98.8	4,285
64期末(2018年11月8日)	9,843	60	△ 7.9	15,210	△ 7.8	113.63	0.6	—	99.1	3,972
65期末(2018年12月10日)	9,569	60	△ 2.2	14,916	△ 1.9	112.52	△ 1.0	—	99.4	3,787
66期末(2019年1月8日)	8,657	60	△ 8.9	13,922	△ 6.7	108.79	△ 3.3	—	98.7	3,371
67期末(2019年2月8日)	9,102	60	5.8	14,442	3.7	109.84	1.0	—	98.0	3,443
68期末(2019年3月8日)	9,243	60	2.2	14,743	2.1	111.58	1.6	0.0	98.6	3,442
69期末(2019年4月8日)	9,659	60	5.1	14,965	1.5	111.44	△ 0.1	—	98.9	3,500
70期末(2019年5月8日)	9,294	60	△ 3.2	14,726	△ 1.6	110.19	△ 1.1	—	98.5	3,326
71期末(2019年6月10日)	8,701	60	△ 5.7	14,105	△ 4.2	108.52	△ 1.5	—	99.2	3,026
72期末(2019年7月8日)	9,129	60	5.6	14,659	3.9	108.54	0.0	—	98.4	3,164
73期末(2019年8月8日)	8,358	60	△ 7.8	13,806	△ 5.8	106.11	△ 2.2	—	98.3	2,808
74期末(2019年9月9日)	8,683	60	4.6	14,149	2.5	106.95	0.8	—	98.6	2,820
75期末(2019年10月8日)	8,687	60	0.7	14,477	2.3	107.39	0.4	—	98.8	2,759
76期末(2019年11月8日)	9,564	60	10.8	15,631	8.0	109.39	1.9	—	97.0	2,996
77期末(2019年12月9日)	9,495	60	△ 0.1	15,771	0.9	108.60	△ 0.7	—	97.1	2,941
78期末(2020年1月8日)	9,530	60	1.0	15,879	0.7	107.83	△ 0.7	—	97.9	2,850
79期末(2020年2月10日)	9,585	60	1.2	15,944	0.4	109.67	1.7	—	98.5	2,820
80期末(2020年3月9日)	7,872	60	△ 17.2	13,544	△ 15.0	102.01	△ 7.0	—	99.3	2,275
81期末(2020年4月8日)	7,680	60	△ 1.7	12,916	△ 4.6	108.67	6.5	—	99.0	2,172
82期末(2020年5月8日)	7,542	60	△ 1.0	13,133	1.7	106.36	△ 2.1	—	99.3	2,136
83期末(2020年6月8日)	8,591	60	14.7	14,842	13.0	109.48	2.9	—	99.5	2,403

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) TOPIXは、当ファンド設定日を10,000として大和アセットマネジメントが計算したものです。また、基準価額への反映を考慮して、1営業日前の日付の終値を採用しています。

(注3) 為替レートは、計算日における対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートを採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

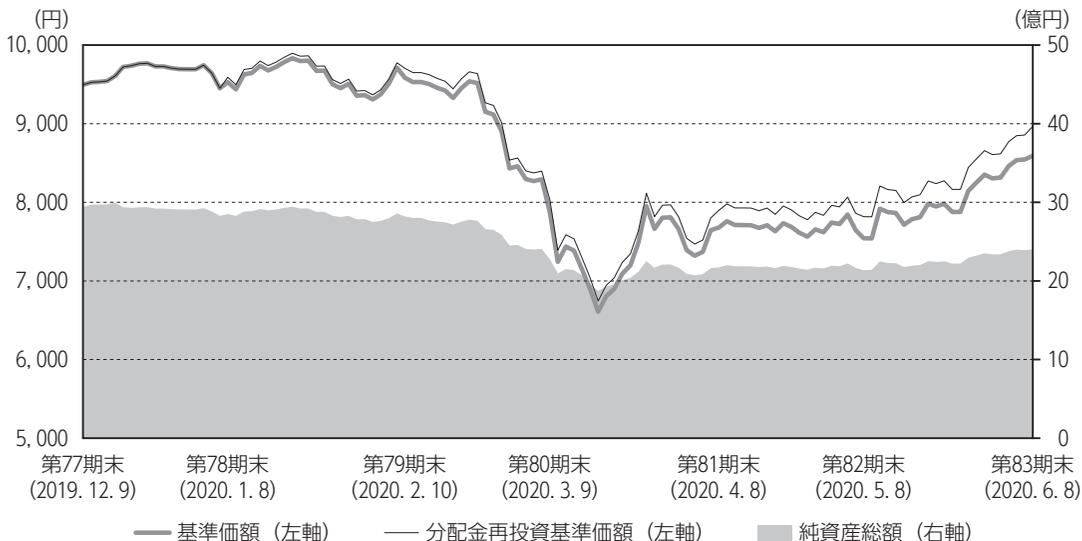
(注5) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注6) 公社債組入比率は新株予約権付社債券(転換社債券)および債券先物を除きます。



運用経過

基準価額等の推移について



* 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります (分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります)。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

■ 基準価額・騰落率

第78期首：9,495円

第83期末：8,591円 (既払分配金360円)

騰落率：△5.6% (分配金再投資ベース)

■ 基準価額の主な変動要因

日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略による運用と為替取引の結果、基準価額は下落しました。株式ポートフォリオ (配当込み) が下落したことがマイナス要因となりました。また、オプション取引戦略については小幅にマイナスとなりました。為替取引 (日本円売り/米ドル買い) は、米ドルが対円で上昇 (円安) したことやプレミアム (金利差相当分の収益) がプラス要因になりました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ダイワ日本株ストラテジーα (通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ - 米ドル・コース (毎月分配型)

	年 月 日	基 準 価 額		T O P I X		米ドル為替レート		公 社 債 組入比率	投資信託 受益証券 組入比率
		円	騰落率	(参考指数)	騰落率	(参考指数)	騰落率		
第78期	(期首) 2019年12月9日	9,495	—	15,771	—	108.60	—	—	97.1
	12月末	9,745	2.6	15,953	1.2	109.56	0.9	—	98.6
	(期末) 2020年1月8日	9,590	1.0	15,879	0.7	107.83	△ 0.7	—	97.9
第79期	(期首) 2020年1月8日	9,530	—	15,879	—	107.83	—	—	97.9
	1月末	9,357	△ 1.8	15,416	△ 2.9	109.06	1.1	—	98.5
	(期末) 2020年2月10日	9,645	1.2	15,944	0.4	109.67	1.7	—	98.5
第80期	(期首) 2020年2月10日	9,585	—	15,944	—	109.67	—	—	98.5
	2月末	8,903	△ 7.1	14,434	△ 9.5	109.43	△ 0.2	—	98.2
	(期末) 2020年3月9日	7,932	△ 17.2	13,544	△ 15.0	102.01	△ 7.0	—	99.3
第81期	(期首) 2020年3月9日	7,872	—	13,544	—	102.01	—	—	99.3
	3月末	7,810	△ 0.8	13,214	△ 2.4	108.83	6.7	—	98.2
	(期末) 2020年4月8日	7,740	△ 1.7	12,916	△ 4.6	108.67	6.5	—	99.0
第82期	(期首) 2020年4月8日	7,680	—	12,916	—	108.67	—	—	99.0
	4月末	7,724	0.6	13,339	3.3	106.87	△ 1.7	—	98.9
	(期末) 2020年5月8日	7,602	△ 1.0	13,133	1.7	106.36	△ 2.1	—	99.3
第83期	(期首) 2020年5月8日	7,542	—	13,133	—	106.36	—	—	99.3
	5月末	8,353	10.8	14,519	10.6	107.53	1.1	—	99.1
	(期末) 2020年6月8日	8,651	14.7	14,842	13.0	109.48	2.9	—	99.5

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

（2019. 12. 10 ～ 2020. 6. 8）

国内株式市況

国内株式市況は下落しました。

国内株式市況は、当作成期首より、米中通商協議の進展や英国選挙での与党の勝利などにより、上昇基調で始まりました。しかし2020年1月下旬に、中国において新型コロナウイルスの感染拡大が懸念され株価が下落したことに続き、2月中旬からは新型コロナウイルスの感染が欧米に拡大し、各国の非常事態宣言や外出禁止令などにより実体経済への懸念が高まると、世界的に株価は下落しました。その後、各国の中央銀行による金融緩和策の発表や欧米での感染拡大が落ち着きをみせたことで、経済活動再開への期待から株価は当作成期末にかけて反発しました。

為替相場

米ドルは対円で上昇しました。

米ドルの対円為替相場は、当作成期首より一進一退で推移した後、2020年2月後半からは、新型コロナウイルスの米国での感染状況が深刻化したことを受けてリスク回避的な円買いとなり、下落しました。その後は、F R B（米国連邦準備制度理事会）などの金融政策を受けた市場心理の改善に伴って円売り圧力が強まったことで、当作成期首を上回る水準まで上昇しました。

短期金利市況

米国の短期金利は、F R B（米国連邦準備制度理事会）がF O M C（米国連邦公開市場委員会）で政策金利の誘導目標レンジを1.50～1.75%から0～0.25%に引き下げました。一方、日本の短期金利は、日銀が「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を維持し、低位で推移しました。

前作成期末における「今後の運用方針」

当ファンド

今後も、クロッキーファンド（米ドル・クラス）とダイワ・マネーストック・マザーファンドに投資します。また、クロッキーファンド（米ドル・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

※クロッキーファンド（米ドル・クラス）：オージェンタム・トラストークロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（米ドル・クラス）

クロッキーファンド（米ドル・クラス）

1. 主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築します。

- ・投資対象銘柄は「TOP I X100」構成銘柄から金融セクターに属する銘柄を除いた銘柄とします。
 - ・ドイツ銀行グループが独自に開発した株式分析手法「クロッキーモデル」を用い、会計データを重点分析し、割安と判断される30銘柄を選定します。
 - ・選定時における各銘柄の構成比率はおおむね均等とします。また、銘柄の見直しは約1カ月ごとに行います。
 - ・個別銘柄ごとに、コール・オプションを売却することでカバードコール戦略を構築します。
2. 為替取引を活用します。
- 日本円売り／米ドル買いの為替取引を行います。

■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

ポートフォリオについて

(2019. 12. 10 ~ 2020. 6. 8)

■当ファンド

当ファンドは、クロッキーファンド (米ドル・クラス) とダイワ・マネースtock・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。当作成期は、クロッキーファンド (米ドル・クラス) への投資割合を高位に維持することをめざしました。

■クロッキーファンド (米ドル・クラス)

株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略のうち、クロッキーモデルによる銘柄選択効果が若干プラスに働き、株式ポートフォリオ (配当除く) はTOP I X指数 (配当除く) を若干上回るパフォーマンスとなりました。一方、オプション取引戦略については、想定していたオプションプレミアムは獲得したものの、一部銘柄において権利行使価格を上回る株価の上昇が発生したことなどがマイナス要因となりました。結果としてオプション取引戦略は小幅にマイナスとなりました。

株式とオプション取引の組み合わせで寄与度が高かった銘柄は、大塚ホールディングス (医薬品)、スズキ (輸送用機器)、小野薬品工業 (医薬品)、任天堂 (その他製品)、日立製作所 (電気機器) でした。また、寄与度が低かった銘柄は、西日本旅客鉄道 (陸運業)、住友商事 (卸売業)、旭化成 (化学)、三菱ケミカルホールディングス (化学)、いすゞ自動車 (輸送用機器) でした。

円建ての資産に対して、日本円売り／米ドル買いの為替取引を行いました。

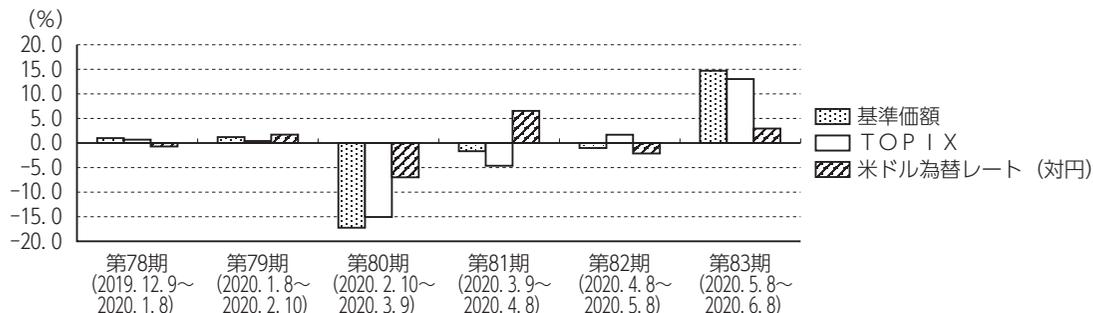
■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	第78期	第79期	第80期	第81期	第82期	第83期
	2019年12月10日 ～2020年1月8日	2020年1月9日 ～2020年2月10日	2020年2月11日 ～2020年3月9日	2020年3月10日 ～2020年4月8日	2020年4月9日 ～2020年5月8日	2020年5月9日 ～2020年6月8日
当期分配金(税込み) (円)	60	60	60	60	60	60
対基準価額比率 (%)	0.63	0.62	0.76	0.78	0.79	0.69
当期の収益 (円)	60	60	60	60	60	60
当期の収益以外 (円)	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額 (円)	5,704	5,730	5,757	5,779	5,832	5,838

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

■収益分配金の計算過程（1万口当り）

項目	第78期	第79期	第80期	第81期	第82期	第83期
(a) 経費控除後の配当等収益	✓ 80.22円	✓ 86.50円	✓ 86.27円	✓ 82.07円	✓ 113.35円	✓ 66.36円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(c) 収益調整金	1,898.16	1,905.86	1,912.07	1,921.50	1,931.42	1,941.69
(d) 分配準備積立金	3,785.83	3,798.35	3,818.64	3,835.50	3,847.66	3,890.75
(e) 当期分配対象額 (a+b+c+d)	5,764.21	5,790.71	5,817.00	5,839.08	5,892.44	5,898.81
(f) 分配金	60.00	60.00	60.00	60.00	60.00	60.00
(g) 翌期繰越分配対象額 (e-f)	5,704.21	5,730.71	5,757.00	5,779.08	5,832.44	5,838.81

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



今後の運用方針

■当ファンド

今後も、クロッキーファンド（米ドル・クラス）とダイワ・マネースtock・マザーファンドに投資します。また、クロッキーファンド（米ドル・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

■クロッキーファンド（米ドル・クラス）

- 主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築します。
 - 投資対象銘柄は「TOP 1 X 100」構成銘柄から金融セクターに属する銘柄を除いた銘柄とします。
 - ドイツ銀行グループが独自に開発した株式分析手法「クロッキーモデル」を用い、会計データを重点分析し、割安と判断される30銘柄を選定します。
 - 選定時における各銘柄の構成比率はおおむね均等とします。また、銘柄の見直しは約1カ月ごとに行います。
 - 個別銘柄ごとに、コール・オプションを売却することでカバードコール戦略を構築します。
- 為替取引を活用します。

日本円売り／米ドル買いの為替取引を行います。

■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

1万口当りの費用の明細

項 目	第78期～第83期 (2019. 12. 10～2020. 6. 8)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	64円	0. 742%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は8, 562円です。
(投 信 会 社)	(23)	(0. 263)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(40)	(0. 466)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(1)	(0. 013)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0. 004	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0. 004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0. 000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	64	0. 746	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

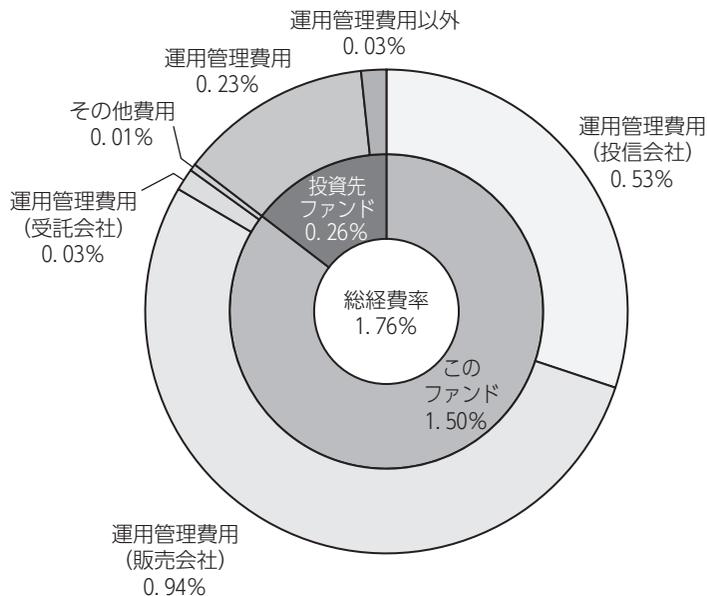
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含まず。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.76%です。



総経費率（①＋②＋③）	1.76%
①このファンドの費用の比率	1.50%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.23%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.03%

(注1) ①の費用は、1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■売買および取引の状況

投資信託受益証券

(2019年12月10日から2020年6月8日まで)

決算期	第 78 期 ~ 第 83 期			
	買 付		売 付	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
外国 (邦貨建)	千口 2,386,94511	千円 163,643	千口 4,496,089822	千円 315,000

(注1) 買付は、外国投資信託から支払われた分配金による再投資分を含みます。

(注2) 金額は受渡し代金。

(注3) 金額の単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

投資信託受益証券

(2019年12月10日から2020年6月8日まで)

銘柄	第 78 期 ~			第 83 期		
	買 付			売 付		
	□ 数	金 額	平均単価	□ 数	金 額	平均単価
	千口	千円	円	千口	千円	円
CROCI JAPAN STRATEGY FUND USD CLASS (ケイマン諸島)	4,496,089822	315,000	70			

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

(1) ファンド・オブ・ファンズが組み入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	第 83 期 末		
	□ 数	評価額	比 率
外国投資信託受益証券 (ケイマン諸島) CROCI JAPAN STRATEGY FUND USD CLASS	千口 34,655,22208	千円 2,391,799	% 99.5

(注1) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注2) 評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種 類	第77期末	第 83 期 末	
	□ 数	□ 数	評 価 額
	千口	千口	千円
ダイワ・マネースtock・ マザーファンド	398	398	399

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2020年6月8日現在

項 目	第 83 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資信託受益証券	2,391,799	98.3
ダイワ・マネースtock・ マザーファンド	399	0.0
コール・ローン等、その他	41,177	1.7
投資信託財産総額	2,433,375	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

ダイワ日本株ストラテジーα (通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ- 米ドル・コース (毎月分配型)

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2020年1月8日)、(2020年2月10日)、(2020年3月9日)、(2020年4月8日)、(2020年5月8日)、(2020年6月8日)現在

項目	第78期末	第79期末	第80期末	第81期末	第82期末	第83期末
(A) 資産	2,882,390,465円	2,847,799,240円	2,305,736,201円	2,192,263,582円	2,166,370,392円	2,457,375,794円
コール・ローン等	92,128,897	70,150,937	44,952,905	41,350,732	24,740,006	41,177,050
投資信託受益証券 (評価額)	2,789,862,206	2,777,248,981	2,260,383,974	2,150,513,528	2,121,231,104	2,391,799,462
ダイワ・マネーストック・マザーファンド (評価額)	399,362	399,322	399,322	399,322	399,282	399,282
未収入金	—	—	—	—	20,000,000	24,000,000
(B) 負債	31,726,393	27,633,482	30,416,144	19,598,747	29,760,918	54,265,388
未払金	—	—	—	—	10,000,000	24,000,000
未払収益分配金	17,947,774	17,654,253	17,342,124	16,974,186	16,996,891	16,782,847
未払解約金	10,178,862	6,095,453	9,985,826	—	—	10,514,689
未払信託報酬	3,579,955	3,842,724	3,030,381	2,552,580	2,677,166	2,864,973
その他未払費用	19,802	41,052	57,813	71,981	86,861	102,879
(C) 純資産総額 (A - B)	2,850,664,072	2,820,165,758	2,275,320,057	2,172,664,835	2,136,609,474	2,403,110,406
元本	2,991,295,812	2,942,375,624	2,890,354,076	2,829,031,105	2,832,815,317	2,797,141,251
次期繰越損益金	△ 140,631,740	△ 122,209,866	△ 615,034,019	△ 656,366,270	△ 696,205,843	△ 394,030,845
(D) 受益権総口数	2,991,295,812口	2,942,375,624口	2,890,354,076口	2,829,031,105口	2,832,815,317口	2,797,141,251口
1万口当り基準価額 (C/D)	9,530円	9,585円	7,872円	7,680円	7,542円	8,591円

*第77期末における元本額は3,098,302,664円、当作成期間(第78期~第83期)中における追加設定元本額は56,895,391円、同解約元本額は358,056,804円です。

*第83期末の計算口数当りの純資産額は8,591円です。

*第83期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は394,030,845円です。

■損益の状況

第78期 自 2019年12月10日 至 2020年1月8日 第80期 自 2020年2月11日 至 2020年3月9日 第82期 自 2020年4月9日 至 2020年5月8日
 第79期 自 2020年1月9日 至 2020年2月10日 第81期 自 2020年3月10日 至 2020年4月8日 第83期 自 2020年5月9日 至 2020年6月8日

項目	第78期	第79期	第80期	第81期	第82期	第83期
(A) 配当等収益	27,049,945円	28,365,294円	27,984,024円	25,785,665円	34,802,914円	18,735,282円
受取配当金	27,052,690	28,367,256	27,984,894	25,787,017	34,803,945	18,736,510
受取利息	19	—	1	85	30	1
支払利息	△ 2,764	△ 1,962	△ 871	△ 1,437	△ 1,061	△ 1,229
(B) 有価証券売買損益	4,846,923	9,253,960	△ 502,564,520	△ 60,617,975	△ 54,075,982	294,322,496
売買益	6,205,344	10,045,758	2,324,051	4,865,270	69,585	296,694,312
売買損	△ 1,358,421	△ 791,798	△ 504,888,571	△ 65,483,245	△ 54,145,567	△ 2,371,816
(C) 信託報酬等	△ 3,599,757	△ 3,863,974	△ 3,047,142	△ 2,566,748	△ 2,692,046	△ 2,881,043
(D) 当期損益金 (A + B + C)	28,297,111	33,755,280	△ 477,627,638	△ 37,399,058	△ 21,965,114	310,176,735
(E) 前期繰越損益金	△ 394,697,317	△ 377,297,713	△ 354,234,673	△ 829,151,954	△ 882,432,090	△ 907,397,961
(F) 追加信託差損益金	243,716,240	238,986,820	234,170,416	227,158,928	225,188,252	219,973,228
(配当等相当額)	(567,795,888)	(560,776,019)	(552,657,802)	(543,599,310)	(547,137,898)	(543,118,430)
(売買損益相当額)	(△ 324,079,648)	(△ 321,789,199)	(△ 318,487,386)	(△ 316,440,382)	(△ 321,949,646)	(△ 323,145,202)
(G) 合計 (D + E + F)	△ 122,683,966	△ 104,555,613	△ 597,691,895	△ 639,392,084	△ 679,208,952	△ 377,247,998
(H) 収益分配金	△ 17,947,774	△ 17,654,253	△ 17,342,124	△ 16,974,186	△ 16,996,891	△ 16,782,847
次期繰越損益金 (G + H)	△ 140,631,740	△ 122,209,866	△ 615,034,019	△ 656,366,270	△ 696,205,843	△ 394,030,845
追加信託差損益金	243,716,240	238,986,820	234,170,416	227,158,928	225,188,252	219,973,228
(配当等相当額)	(567,795,888)	(560,776,019)	(552,657,802)	(543,599,310)	(547,137,898)	(543,118,430)
(売買損益相当額)	(△ 324,079,648)	(△ 321,789,199)	(△ 318,487,386)	(△ 316,440,382)	(△ 321,949,646)	(△ 323,145,202)
分配準備積立金	1,138,503,490	1,125,417,001	1,111,319,504	1,091,322,349	1,105,086,116	1,090,079,807
繰越損益金	△ 1,522,851,470	△ 1,486,613,687	△ 1,960,523,939	△ 1,974,847,547	△ 2,026,480,211	△ 1,704,083,880

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程 (総額)」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	第78期	第79期	第80期	第81期	第82期	第83期
(a) 経費控除後の配当等収益	23,997,335円	25,451,849円	24,936,879円	23,218,905円	32,110,855円	18,562,985円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0	0	0	0	0	0
(c) 収益調整金	567,795,888	560,776,019	552,657,802	543,599,310	547,137,898	543,118,430
(d) 分配準備積立金	1,132,453,929	1,117,619,405	1,103,724,749	1,085,077,630	1,089,972,152	1,088,299,669
(e) 当期分配対象額 (a+b+c+d)	1,724,247,152	1,703,847,273	1,681,319,430	1,651,895,845	1,669,220,905	1,649,981,084
(f) 分配金	17,947,774	17,654,253	17,342,124	16,974,186	16,996,891	16,782,847
(g) 翌期繰越分配対象額 (e-f)	1,706,299,378	1,686,193,020	1,663,977,306	1,634,921,659	1,652,224,014	1,633,198,237
(h) 受益権総口数	2,991,295,812□	2,942,375,624□	2,890,354,076□	2,829,031,105□	2,832,815,317□	2,797,141,251□

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ						
1万口当り分配金	第78期	第79期	第80期	第81期	第82期	第83期
		60円	60円	60円	60円	60円

●〈分配金再投資コース〉をご利用の方の税引き分配金は、決算日現在の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

《お知らせ》

■商号変更について

大和証券投資信託委託株式会社は、2020年4月1日付で、商号を「大和アセットマネジメント株式会社」に変更いたしました。

通貨セレクト・コース (毎月分配型)

最近30期の運用実績

決算期	基準価額			T O P I X		公社債 組入比率	投資信託 受益証券 組入比率	純資産額
	(分配落)	税込み 分配金	期中 騰落率	(参考指数)	期中 騰落率			
	円	円	%		%	%	%	百万円
54期末(2018年1月9日)	5,564	100	6.7	17,308	5.3	—	99.1	8,034
55期末(2018年2月8日)	5,043	100	△ 7.6	16,107	△ 6.9	—	98.4	7,135
56期末(2018年3月8日)	4,612	100	△ 6.6	15,684	△ 2.6	—	98.9	6,462
57期末(2018年4月9日)	4,604	100	2.0	15,826	0.9	—	98.7	6,416
58期末(2018年5月8日)	4,558	100	1.2	16,322	3.1	—	98.8	6,288
59期末(2018年6月8日)	4,314	100	△ 3.2	16,467	0.9	—	98.5	5,837
60期末(2018年7月9日)	3,995	100	△ 5.1	15,570	△ 5.4	0.0	98.5	5,292
61期末(2018年8月8日)	4,032	100	3.4	16,072	3.2	0.0	98.8	5,228
62期末(2018年9月10日)	3,565	70	△ 9.8	15,504	△ 3.5	—	99.5	4,509
63期末(2018年10月9日)	3,847	70	9.9	16,501	6.4	—	99.4	4,724
64期末(2018年11月8日)	3,570	70	△ 5.4	15,210	△ 7.8	—	99.1	4,312
65期末(2018年12月10日)	3,466	70	△ 1.0	14,916	△ 1.9	—	99.1	4,116
66期末(2019年1月8日)	3,131	70	△ 7.6	13,922	△ 6.7	—	98.6	3,689
67期末(2019年2月8日)	3,276	70	6.9	14,442	3.7	—	99.0	3,837
68期末(2019年3月8日)	3,283	40	1.4	14,743	2.1	0.0	98.5	3,805
69期末(2019年4月8日)	3,475	40	7.1	14,965	1.5	—	98.8	3,794
70期末(2019年5月8日)	3,278	40	△ 4.5	14,726	△ 1.6	—	99.3	3,497
71期末(2019年6月10日)	3,093	40	△ 4.4	14,105	△ 4.2	—	98.6	3,237
72期末(2019年7月8日)	3,303	40	8.1	14,659	3.9	—	98.6	3,403
73期末(2019年8月8日)	2,972	40	△ 8.8	13,806	△ 5.8	—	98.5	3,005
74期末(2019年9月9日)	3,056	40	4.2	14,149	2.5	—	98.7	3,014
75期末(2019年10月8日)	3,044	40	0.9	14,477	2.3	—	98.4	2,826
76期末(2019年11月8日)	3,373	40	12.1	15,631	8.0	—	96.9	3,047
77期末(2019年12月9日)	3,324	40	△ 0.3	15,771	0.9	—	97.6	2,900
78期末(2020年1月8日)	3,332	40	1.4	15,879	0.7	—	97.4	2,848
79期末(2020年2月10日)	3,326	40	1.0	15,944	0.4	—	99.4	2,824
80期末(2020年3月9日)	2,619	40	△ 20.1	13,544	△ 15.0	—	99.7	2,188
81期末(2020年4月8日)	2,302	40	△ 10.6	12,916	△ 4.6	—	98.2	1,894
82期末(2020年5月8日)	2,227	40	△ 1.5	13,133	1.7	—	99.4	1,835
83期末(2020年6月8日)	2,668	40	21.6	14,842	13.0	—	99.1	2,201

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) T O P I Xは、当ファンド設定日を10,000として大和アセットマネジメントが計算したものです。また、基準価額への反映を考慮して、1営業日前の日付の終値を採用しています。

(注3) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

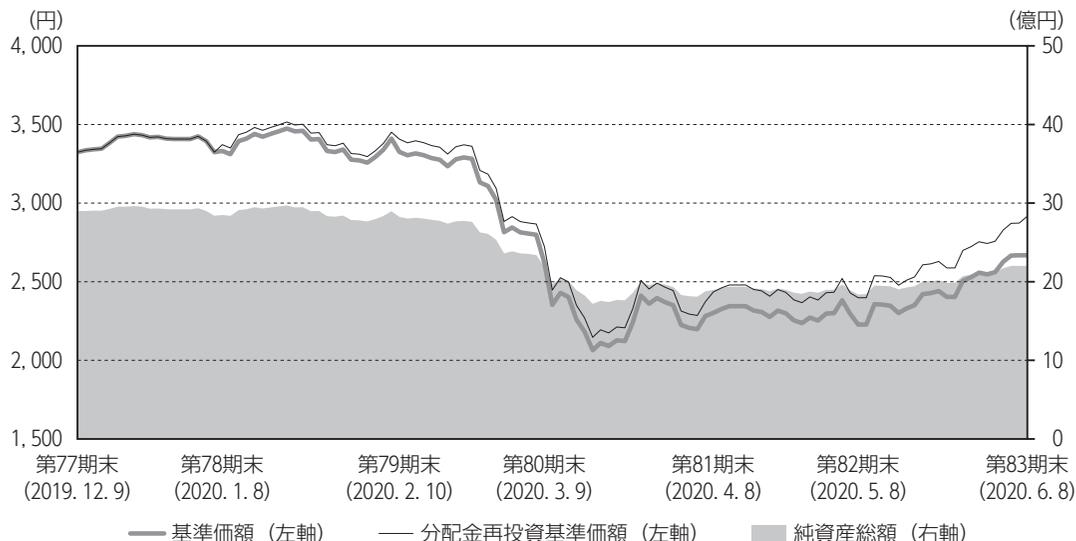
(注4) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注5) 公社債組入比率は新株予約権付社債券(転換社債券)および債券先物を除きます。



運用経過

基準価額等の推移について



* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

基準価額・騰落率

第78期首：3,324円

第83期末：2,668円（既払分配金240円）

騰落率：△12.3%（分配金再投資ベース）

基準価額の主な変動要因

日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略による運用と為替取引の結果、基準価額は下落しました。株式ポートフォリオ（配当込み）が下落したことがマイナス要因となりました。また、オプション取引戦略については小幅にマイナスとなりました。為替取引（日本円売り／選定通貨（※）買い）は、一部の選定通貨が対円で下落（円高）したことはマイナス要因となった一方、プレミアム（金利差相当分の収益）はプラス要因となりました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

※選定通貨とは、通貨の選定方針により、為替取引の対象通貨として選定された通貨をいいます。

ダイワ日本株ストラテジーα (通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ- 通貨セレクト・コース (毎月分配型)

	年 月 日	基 準 価 額		T O P I X		公 社 債 組入比率	投資信託 受益証券 組入比率
		騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率			
第78期	(期首) 2019年12月9日	円 3,324	% —	15,771	% —	% —	% 97.6
	12月末	3,425	3.0	15,953	1.2	—	99.5
	(期末) 2020年1月8日	3,372	1.4	15,879	0.7	—	97.4
第79期	(期首) 2020年1月8日	3,332	—	15,879	—	—	97.4
	1月末	3,276	△ 1.7	15,416	△ 2.9	—	98.0
	(期末) 2020年2月10日	3,366	1.0	15,944	0.4	—	99.4
第80期	(期首) 2020年2月10日	3,326	—	15,944	—	—	99.4
	2月末	3,021	△ 9.2	14,434	△ 9.5	—	98.0
	(期末) 2020年3月9日	2,659	△ 20.1	13,544	△ 15.0	—	99.7
第81期	(期首) 2020年3月9日	2,619	—	13,544	—	—	99.7
	3月末	2,370	△ 9.5	13,214	△ 2.4	—	98.5
	(期末) 2020年4月8日	2,342	△ 10.6	12,916	△ 4.6	—	98.2
第82期	(期首) 2020年4月8日	2,302	—	12,916	—	—	98.2
	4月末	2,300	△ 0.1	13,339	3.3	—	98.0
	(期末) 2020年5月8日	2,267	△ 1.5	13,133	1.7	—	99.4
第83期	(期首) 2020年5月8日	2,227	—	13,133	—	—	99.4
	5月末	2,558	14.9	14,519	10.6	—	99.3
	(期末) 2020年6月8日	2,708	21.6	14,842	13.0	—	99.1

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

（2019. 12. 10 ～ 2020. 6. 8）

国内株式市況

国内株式市況は下落しました。

国内株式市況は、当作成期首より、米中通商協議の進展や英国選挙での与党の勝利などにより、上昇基調で始まりました。しかし2020年1月下旬に、中国において新型コロナウイルスの感染拡大が懸念され株価が下落したことに続き、2月中旬からは新型コロナウイルスの感染が欧米に拡大し、各国の非常事態宣言や外出禁止令などにより実体経済への懸念が高まると、世界的に株価は下落しました。その後、各国の中央銀行による金融緩和策の発表や欧米での感染拡大が落ち着きをもせたことで、経済活動再開への期待から株価は当作成期末にかけて反発しました。

為替相場

選定通貨は対円でまちまちの結果となりました。

選定通貨の対円為替相場は、当作成期首から2020年1月半ばにかけて、米中貿易摩擦への懸念が後退し市場のリスク選好度が強まったことなどから、対円でおおむね上昇しました。しかしその後は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大から市場のリスク回避姿勢が強まり、選定通貨は対円で下落しました。5月以降は、世界的な経済活動の再開期待から、選定通貨は対円でおおむね上昇しました。

当作成期における選定通貨の値動きは、インド・ルピー、メキシコ・ペソ、ロシア・ルーブル、トルコ・リラ、南アフリカ・ランドは対円で下落しました。一方で、インドネシア・ルピア、中国・人民元、ルーマニア・レイは対円で上昇しました。

短期金利市況

選定通貨の短期金利は、高い経済成長率やインフレ率を背景に日本円の短期金利をおおむね上回って推移しました。日本の短期金利は、日銀が「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を維持し、低位で推移しました。

前作成期末における「今後の運用方針」

当ファンド

今後も、クロッキーファンド（通貨セレクト・クラス）とダイワ・マネースtock・マザーファンドに投資します。また、クロッキーファンド（通貨セレクト・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

※クロッキーファンド（通貨セレクト・クラス）：オージェンタム・トラストクロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（通貨セレクト・クラス）

■クロッキーファンド (通貨セレクト・クラス)

1. 主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築します。
 - ・投資対象銘柄は「TOP 1 X 100」構成銘柄から金融セクターに属する銘柄を除いた銘柄とします。
 - ・ドイツ銀行グループが独自に開発した株式分析手法「クロッキーモデル」を用い、会計データを重点分析し、割安と判断される30銘柄を選定します。
 - ・選定時における各銘柄の構成比率はおおむね均等とします。また、銘柄の見直しは約1カ月ごとに行います。
 - ・個別銘柄ごとに、コール・オプションを売却することでカバードコール戦略を構築します。
2. 為替取引を活用します。
 - ・日本円売り／選定通貨買いの為替取引を行います。
 - ・大和アセットマネジメント株式会社が通貨の選定および配分比率について助言を行います。

[通貨の運用方針]

- ・原則として、「F T S E 世界国債インデックス」および「J P モルガン ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケット ブロード」の構成国の通貨の中から、金利水準、リスク水準、ファンダメンタルズ、流動性等を考慮し、6つの通貨を選定します。
- * 上記指数構成国の通貨以外の通貨を選定する場合があります。
 - ・選定通貨の投資比率は、金利水準、リスク水準等を考慮して決定します。
 - ・選定通貨および投資比率は、原則、毎月見直します。

■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

ポートフォリオについて

(2019. 12. 10 ~ 2020. 6. 8)

■当ファンド

当ファンドは、クロッキーファンド (通貨セレクト・クラス) とダイワ・マネースtock・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。当作成期は、クロッキーファンド (通貨セレクト・クラス) への投資割合を高位に維持することをめざしました。

■クロッキーファンド（通貨セレクト・クラス）

株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略のうち、クロッキーモデルによる銘柄選択効果が若干プラスに働き、株式ポートフォリオ（配当除く）はTOPIX指数（配当除く）を若干上回るパフォーマンスとなりました。一方、オプション取引戦略については、想定していたオプションプレミアムは獲得したものの、一部銘柄において権利行使価格を上回る株価の上昇が発生したなどがマイナス要因となりました。結果としてオプション取引戦略は小幅にマイナスとなりました。

株式とオプション取引の組み合わせで寄与度が高かった銘柄は、大塚ホールディングス（医薬品）、スズキ（輸送用機器）、小野薬品工業（医薬品）、任天堂（その他製品）、日立製作所（電気機器）でした。また、寄与度が低かった銘柄は、西日本旅客鉄道（陸運業）、住友商事（卸売業）、旭化成（化学）、三菱ケミカルホールディングス（化学）、いすゞ自動車（輸送用機器）でした。

選定通貨においては、金利水準、リスク水準、ファンダメンタルズ、流動性等を勘案し、中長期的な視点から安定したキャリー（利息）収益が享受できる通貨を毎月6通貨選定し、円建ての資産に対して、日本円売り／選定通貨買いの為替取引を行いました。また、取引対象通貨合計の比率は、原資産に対しておおむね100%を維持しました。

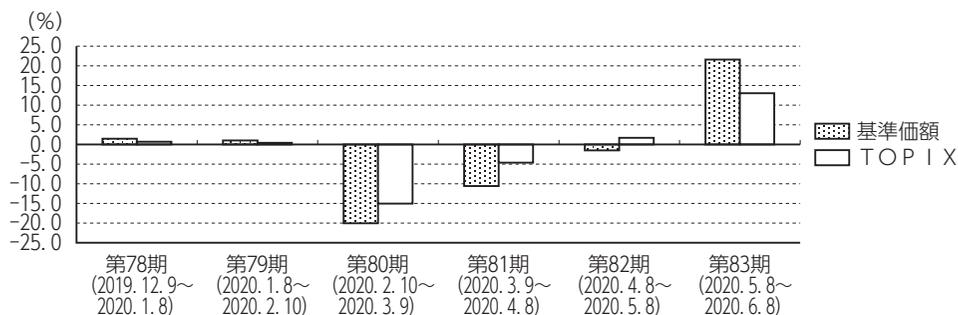
■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	第78期	第79期	第80期	第81期	第82期	第83期
	2019年12月10日 ～2020年1月8日	2020年1月9日 ～2020年2月10日	2020年2月11日 ～2020年3月9日	2020年3月10日 ～2020年4月8日	2020年4月9日 ～2020年5月8日	2020年5月9日 ～2020年6月8日
当期分配金(税込み) (円)	40	40	40	40	40	40
対基準価額比率 (%)	1.19	1.19	1.50	1.71	1.76	1.48
当期の収益 (円)	40	40	40	40	40	36
当期の収益以外 (円)	—	—	—	—	—	3
翌期繰越分配対象額 (円)	680	682	686	688	694	690

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	第78期	第79期	第80期	第81期	第82期	第83期
(a) 経費控除後の配当等収益	✓ 43.51円	✓ 42.05円	✓ 43.63円	✓ 42.37円	✓ 45.53円	✓ 36.49円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(c) 収益調整金	305.64	306.80	308.10	309.49	311.15	312.78
(d) 分配準備積立金	371.28	373.64	374.45	376.70	377.45	✓ 381.35
(e) 当期分配対象額 (a+b+c+d)	720.44	722.51	726.18	728.58	734.13	730.64
(f) 分配金	40.00	40.00	40.00	40.00	40.00	40.00
(g) 翌期繰越分配対象額 (e-f)	680.44	682.51	686.18	688.58	694.13	690.64

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



今後の運用方針

■当ファンド

今後も、クロッキーファンド（通貨セレクト・クラス）とダイワ・マネーストック・マザーファンドに投資します。また、クロッキーファンド（通貨セレクト・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

■クロッキーファンド（通貨セレクト・クラス）

1. 主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築します。
 - ・投資対象銘柄は「TOP 1 X 100」構成銘柄から金融セクターに属する銘柄を除いた銘柄とします。
 - ・ドイツ銀行グループが独自に開発した株式分析手法「クロッキーモデル」を用い、会計データを重点分析し、割安と判断される30銘柄を選定します。
 - ・選定時における各銘柄の構成比率はおおむね均等とします。また、銘柄の見直しは約1カ月ごとに行います。
 - ・個別銘柄ごとに、コール・オプションを売却することでカバードコール戦略を構築します。
2. 為替取引を活用します。
 - ・日本円売り／選定通貨買いの為替取引を行います。
 - ・大和アセットマネジメント株式会社が通貨の選定および配分比率について助言を行います。

[通貨の運用方針]

- ・原則として、「F T S E 世界国債インデックス」および「J P モルガン ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケット ブロード」の構成国の通貨の中から、金利水準、リスク水準、ファンダメンタルズ、流動性等を考慮し、6つの通貨を選定します。

※上記指数構成国の通貨以外の通貨を選定する場合があります。

- ・選定通貨の投資比率は、金利水準、リスク水準等を考慮して決定します。
- ・選定通貨および投資比率は、原則、毎月見直します。

■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

1万口当りの費用の明細

項 目	第78期～第83期 (2019. 12. 10～2020. 6. 8)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	21円	0.740%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は2,813円です。
（投 信 会 社）	(7)	(0.262)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
（販 売 会 社）	(13)	(0.465)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	(0)	(0.013)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0.003	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ そ の 他 ）	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	21	0.743	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

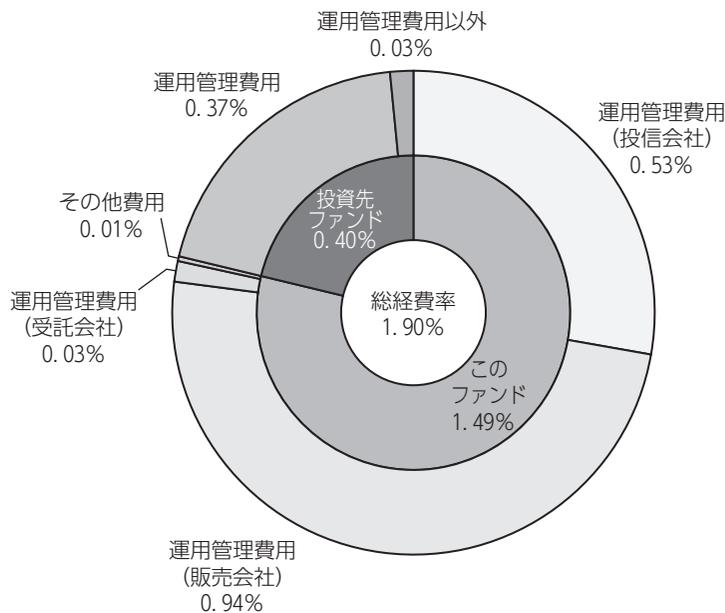
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.90%です。



総経費率（①＋②＋③）	1.90%
①このファンドの費用の比率	1.49%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.37%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.03%

(注1) ①の費用は、1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■売買および取引の状況
投資信託受益証券

(2019年12月10日から2020年6月8日まで)

決算期	第78期～第83期			
	買付		売付	
	□数	金額	□数	金額
	千口	千円	千口	千円
外国 (邦貨建)	8,347.809255	228,150	11,030.700681	312,000

(注1) 買付は、外国投資信託から支払われた分配金による再投資分を含みます。

(注2) 金額は受渡し代金。

(注3) 金額の単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄
投資信託受益証券

(2019年12月10日から2020年6月8日まで)

第78期～				第83期			
買付		平均単価		売付		平均単価	
銘柄	□数	金額	円	銘柄	□数	金額	円
	千口	千円			千口	千円	
				CROCI JAPAN STRATEGY FUND CURRENCY SELECTION CLASS (ケイマン諸島)	11,030.700681	312,000	28

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

(1) ファンド・オブ・ファンズが組み入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	第83期末		
	□数	評価額	比率
	千口	千円	%
外国投資信託受益証券 (ケイマン諸島) CROCI JAPAN STRATEGY FUND CURRENCY SELECTION CLASS	81,100.493652	2,182,819	99.1

(注1) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注2) 評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種類	第77期末	第83期末	
	□数	□数	評価額
	千口	千口	千円
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	1,993	1,993	1,996

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2020年6月8日現在

項目	第83期末	
	評価額	比率
	千円	%
投資信託受益証券	2,182,819	97.4
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	1,996	0.1
コール・ローン等、その他	56,197	2.5
投資信託財産総額	2,241,013	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

ダイワ日本株ストラテジーα (通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ- 通貨セレクト・コース (毎月分配型)

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2020年1月8日)、(2020年2月10日)、(2020年3月9日)、(2020年4月8日)、(2020年5月8日)、(2020年6月8日)現在

項目	第78期末	第79期末	第80期末	第81期末	第82期末	第83期末
(A) 資産	2,895,519,011円	2,863,084,504円	2,234,969,758円	1,929,995,612円	1,884,511,157円	2,241,013,383円
コール・ローン等	117,985,406	52,750,189	50,777,573	67,173,867	37,930,822	56,197,186
投資信託受益証券 (評価額)	2,775,536,795	2,808,337,704	2,182,195,574	1,860,825,134	1,824,583,925	2,182,819,786
ダイワ・マネーストック・マザーファンド (評価額)	1,996,810	1,996,611	1,996,611	1,996,611	1,996,411	1,996,411
未収入金	—	—	—	—	19,999,999	—
(B) 負債	46,851,572	38,573,472	46,113,105	35,289,926	48,862,484	39,210,566
未払金	—	—	—	—	10,000,000	—
未払収益分配金	34,192,881	33,971,932	33,426,022	32,922,747	32,966,043	33,005,036
未払解約金	9,065,805	687,549	9,618,987	—	3,472,239	3,555,422
未払信託報酬	3,573,123	3,872,815	3,010,269	2,296,620	2,340,590	2,552,296
その他未払費用	19,763	41,176	57,827	70,559	83,612	97,812
(C) 純資産総額 (A - B)	2,848,667,439	2,824,511,032	2,188,856,653	1,894,705,686	1,835,648,673	2,201,802,817
元本	8,548,220,460	8,492,983,045	8,356,505,596	8,230,686,965	8,241,510,812	8,251,259,138
次期繰越損益金	△ 5,699,553,021	△ 5,668,472,013	△ 6,167,648,943	△ 6,335,981,279	△ 6,405,862,139	△ 6,049,456,321
(D) 受益権総口数	8,548,220,460口	8,492,983,045口	8,356,505,596口	8,230,686,965口	8,241,510,812口	8,251,259,138口
1万口当り基準価額 (C/D)	3,332円	3,326円	2,619円	2,302円	2,227円	2,668円

*第77期末における元本額は8,725,215,970円、当作成期間(第78期~第83期)中における追加設定元本額は182,106,594円、同解約元本額は656,063,426円です。

*第83期末の計算口数当りの純資産額は2,668円です。

*第83期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は6,049,456,321円です。

■損益の状況

第78期 自2019年12月10日 至2020年1月8日 第80期 自2020年2月11日 至2020年3月9日 第82期 自2020年4月9日 至2020年5月8日
 第79期 自2020年1月9日 至2020年2月10日 第81期 自2020年3月10日 至2020年4月8日 第83期 自2020年5月9日 至2020年6月8日

項目	第78期	第79期	第80期	第81期	第82期	第83期
(A) 配当等収益	40,431,892円	39,613,452円	39,490,628円	37,187,895円	39,881,230円	30,310,443円
受取配当金	40,433,302	39,615,894	39,491,555	37,189,502	39,882,766	30,311,203
受取利息	7	3	—	56	46	—
支払利息	△ 1,417	△ 2,445	△ 927	△ 1,663	△ 1,582	△ 760
(B) 有価証券売買損益	4,482,438	△ 7,491,108	△ 593,077,109	△ 263,015,764	△ 66,110,781	369,195,374
売買益	5,285,564	110,929	2,719,826	5,746,993	229,869	369,864,126
売買損	△ 803,126	△ 7,602,037	△ 595,796,935	△ 268,762,757	△ 66,340,650	△ 668,752
(C) 信託報酬等	△ 3,592,886	△ 3,894,228	△ 3,026,920	△ 2,309,352	△ 2,353,643	△ 2,566,533
(D) 当期損益金 (A + B + C)	41,321,444	28,228,116	△ 556,613,401	△ 228,137,221	△ 28,583,194	396,939,284
(E) 前期繰越損益金	△ 4,863,154,933	△ 4,809,822,210	△ 4,722,352,524	△ 5,213,351,559	△ 5,458,003,856	△ 5,502,569,972
(F) 追加信託差損益金	△ 843,526,651	△ 852,905,987	△ 855,256,996	△ 861,569,752	△ 886,309,046	△ 910,820,597
(配当等相当額)	(261,273,956)	(260,571,576)	(257,465,784)	(254,737,758)	(256,435,245)	(258,087,918)
(売買損益相当額)	(△ 1,104,800,607)	(△ 1,113,477,563)	(△ 1,112,722,780)	(△ 1,116,307,510)	(△ 1,142,744,291)	(△ 1,168,908,515)
(G) 合計 (D + E + F)	△ 5,665,360,140	△ 5,634,500,081	△ 6,134,222,921	△ 6,303,058,532	△ 6,372,896,096	△ 6,016,451,285
(H) 収益分配金	△ 34,192,881	△ 33,971,932	△ 33,426,022	△ 32,922,747	△ 32,966,043	△ 33,005,036
次期繰越損益金 (G + H)	△ 5,699,553,021	△ 5,668,472,013	△ 6,167,648,943	△ 6,335,981,279	△ 6,405,862,139	△ 6,049,456,321
追加信託差損益金	△ 843,526,651	△ 852,905,987	△ 855,256,996	△ 861,569,752	△ 886,309,046	△ 910,820,597
(配当等相当額)	(261,273,956)	(260,571,576)	(257,465,784)	(254,737,758)	(256,435,245)	(258,087,918)
(売買損益相当額)	(△ 1,104,800,607)	(△ 1,113,477,563)	(△ 1,112,722,780)	(△ 1,116,307,510)	(△ 1,142,744,291)	(△ 1,168,908,515)
分配準備積立金	320,388,036	319,086,830	315,948,010	312,013,420	315,639,737	311,779,065
繰越損益金	△ 5,176,414,406	△ 5,134,652,856	△ 5,628,339,957	△ 5,786,424,947	△ 5,835,192,830	△ 5,450,414,789

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程 (総額)」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	第78期	第79期	第80期	第81期	第82期	第83期
(a) 経費控除後の配当等収益	37,197,479円	35,719,158円	36,463,671円	34,878,462円	37,527,511円	30,115,557円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0	0	0	0	0	0
(c) 収益調整金	261,273,956	260,571,576	257,465,784	254,737,758	256,435,245	258,087,918
(d) 分配準備積立金	317,383,438	317,339,604	312,910,361	310,057,705	311,078,269	314,668,544
(e) 当期分配対象額 (a+b+c+d)	615,854,873	613,630,338	606,839,816	599,673,925	605,041,025	602,872,019
(f) 分配金	34,192,881	33,971,932	33,426,022	32,922,747	32,966,043	33,005,036
(g) 翌期繰越分配対象額 (e-f)	581,661,992	579,658,406	573,413,794	566,751,178	572,074,982	569,866,983
(h) 受益権総口数	8,548,220,460口	8,492,983,045口	8,356,505,596口	8,230,686,965口	8,241,510,812口	8,251,259,138口

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ						
1 万口当り分配金	第78期	第79期	第80期	第81期	第82期	第83期
		40円	40円	40円	40円	40円

●〈分配金再投資コース〉をご利用の方の税引き分配金は、決算日現在の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

《お知らせ》

■商号変更について

大和証券投資信託委託株式会社は、2020年4月1日付で、商号を「大和アセットマネジメント株式会社」に変更いたしました。

オージェンタム・トラスト・クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド
 日本円・クラス／豪ドル・クラス／ブラジル・レアル・クラス／
 米ドル・クラス／通貨セレクト・クラス

当ファンド（ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型）－ジャパン・トリプルリターンズ－ 日本円・コース（毎月分配型）／豪ドル・コース（毎月分配型）／ブラジル・レアル・コース（毎月分配型）／米ドル・コース（毎月分配型）／通貨セレクト・コース（毎月分配型））はケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト・クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド 日本円・クラス／豪ドル・クラス／ブラジル・レアル・クラス／米ドル・クラス／通貨セレクト・クラス」に投資しておりますが、以下の内容は一部の項目を除きすべてのクラスを合算しております。

（注）2020年6月8日時点で入手しうる直近の状況を掲載しております。

（日本円建て）

貸借対照表
 2019年2月28日

資産

投資資産の評価額（簿価 ¥16,601,797,400）	¥	14,866,864,800
現金および現金同等物		28,061,511
外国為替先渡契約による評価益		5,725
スワップ契約による評価益		66,562,447
終了したスワップ契約の未収		171,956,239
資産合計		15,133,450,722

負債

スワップ契約による評価損		4,410,152
未払：		
専門家報酬		10,782,488
管理会社報酬		3,564,639
運用会社報酬		1,576,024
為替投資アドバイザー報酬		1,468,189
名義書換代理人報酬		425,546
受託会社報酬		195,038
その他負債		272,826
負債合計		22,694,902

純資産

	¥	15,110,755,820
豪ドル・クラス	¥	663,674,939
ブラジル・レアル・クラス		4,098,322,457
日本円・クラス		2,994,118,235
通貨セレクト・クラス		3,890,307,916
米ドル・クラス		3,464,332,273
	¥	15,110,755,820

発行済み受益証券口数

豪ドル・クラス	11,455,518
ブラジル・リアル・クラス	100,852,527
日本円・クラス	41,545,932
通貨セレクト・クラス	110,294,824
米ドル・クラス	43,933,672

受益証券1口当り純資産額

豪ドル・クラス	¥	57.93
ブラジル・リアル・クラス	¥	40.64
日本円・クラス	¥	72.07
通貨セレクト・クラス	¥	35.27
米ドル・クラス	¥	78.85

損益計算書

2019年2月28日に終了した年度

費用

運用会社報酬	23,991,613
管理会社報酬	14,758,783
為替投資アドバイザー報酬	7,502,217
専門家報酬	5,366,219
受託会社報酬	1,991,415
名義書換代理人報酬	1,850,514
支払利息	52,852
その他費用	248,922
費用合計	55,762,535

投資純損失

(55,762,535)

実現益 (損) および評価益 (損) :

実現益 (損) の内訳 :

証券投資	(2,641,035,605)
スワップ契約	(693,116,445)
外国為替取引および外国為替先渡契約	(2)

純実現損失

(3,334,152,052)

評価益の純変動の内訳 :

証券投資	1,425,901,200
スワップ契約	205,364,425
外国為替換算および外国為替先渡契約	5,725

評価益の純変動

1,631,271,350

純実現益 (損) および評価益 (損) の純変動

(1,702,880,702)

運用による純資産の純減

¥ (1,758,643,237)

投資明細表
2019年2月28日

投資資産の明細	受益証券口数	純資産に占める割合	評価額
CROCI Japan Covered Call Strategy* - トータル・リターン・スワップ	196,340,000	98.39%	¥ 14,866,864,800
ストラクチャード商品合計 (簿価 ¥16,601,797,400)			14,866,864,800
投資資産合計 (簿価 ¥16,601,797,400)		98.39%	¥ 14,866,864,800

*当ファンドは Deutsche Bank A.G.、ロンドン支店との間で締結したファンドの残高と同金額の元本のパフォーマンス・スワップを通して CROCI Japan Covered Call Strategy と同様のエクスポージャーを有しています。

外国為替先渡契約

買い	取引相手	想定元本	満期日	売り	想定元本	評価益	評価 (損)	純評価益 / (損)	純資産に占める割合
U S D	Brown Brothers Harriman & Co.	11,578	2019/3/1	J P Y	(1,283,199)	¥ 5,725	¥ -	¥ 5,725	0.00%

豪ドル・クラス外国為替スワップ契約

買い	取引相手	想定元本	満期日	売り	想定元本	純評価益 / (損)	純資産に占める割合
A U D	Deutsche Bank A.G.	8,457,883	2019/3/29	J P Y	(671,081,150)	¥ (2,502,764)	(0.02%)

ブラジル・リアル・クラス外国為替スワップ契約

買い	取引相手	想定元本	満期日	売り	想定元本	純評価益 / (損)	純資産に占める割合
B R L	Deutsche Bank A.G.	137,565,623	2019/3/29	J P Y	(4,038,255,507)	¥ 33,417,420	0.22%

通貨セレクト・クラス外国為替スワップ契約

買い	取引相手	想定元本	満期日	売り	想定元本	純評価益 / (損)	純資産に占める割合
I D R	Deutsche Bank A.G.	73,986,211,449	2019/3/29	J P Y	(583,839,885)	¥ (1,816,205)	(0.01%)
I N R	Deutsche Bank A.G.	404,078,632	2019/3/29	J P Y	(626,091,455)	5,030,859	0.03%
M X N	Deutsche Bank A.G.	111,933,487	2019/3/29	J P Y	(641,455,663)	1,818,191	0.01%
P H P	Deutsche Bank A.G.	294,573,830	2019/3/29	J P Y	(626,091,455)	4,685,201	0.03%
R U B	Deutsche Bank A.G.	358,367,617	2019/3/29	J P Y	(599,204,092)	2,950,282	0.02%
T R Y	Deutsche Bank A.G.	37,265,629	2019/3/29	J P Y	(764,369,323)	(91,183)	(0.00%)
合計						¥ 12,577,145	0.08%

米ドル・クラス外国為替スワップ契約

買い	取引相手	想定元本	満期日	売り	想定元本	純評価益 / (損)	純資産に占める割合
U S D	Deutsche Bank A.G.	30,845,853	2019/3/29	J P Y	(3,409,176,180)	¥ 18,660,494	0.12%

語集：

A U D	豪ドル
B R L	ブラジル・リアル
I D R	インドネシア・ルピア
I N R	インド・ルピー
M X N	メキシコ・ペソ
P H P	フィリピン・ペソ
R U B	ロシア・ルーブル
T R Y	トルコ・リラ
U S D	米ドル

ダイワ・マネーストック・マザーファンド

<補足情報>

当ファンド（ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型）－ジャパン・トリプルリターンズ－）が投資対象としている「ダイワ・マネーストック・マザーファンド」の決算日（2019年12月9日）と、当ファンドの決算日が異なっておりますので、当ファンドの第83期の決算日（2020年6月8日）現在におけるダイワ・マネーストック・マザーファンドの組入資産の内容等を掲載いたしました。

■ダイワ・マネーストック・マザーファンドの主要な売買銘柄

2019年12月10日～2020年6月8日現在における主要な売買銘柄はありません。

■組入資産明細表

2020年6月8日現在、有価証券等の組み入れはありません。

ダイワ・マネースtock・マザーファンド

運用報告書 第10期（決算日 2019年12月9日）

（作成対象期間 2018年12月11日～2019年12月9日）

ダイワ・マネースtock・マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

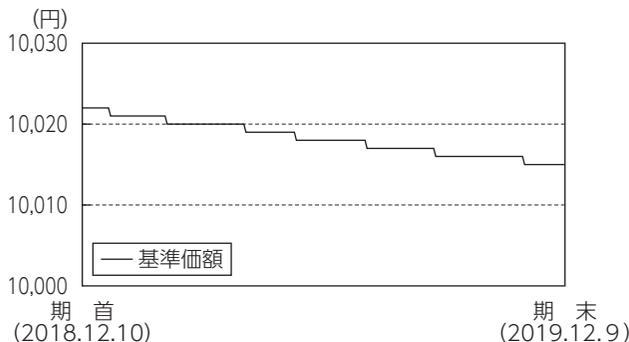
運用方針	安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。
主要投資対象	円建ての債券
株式組入制限	純資産総額の10%以下

大和投資信託

Daiwa Asset Management

大和証券投資信託委託株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

■当作成期中の基準価額と市況等の推移



年 月 日	基準 価 額		公 社 債 組 入 比 率
	騰 落 率	騰 落 率	
(期首)2018年12月10日	円	%	%
	10,022	-	-
12月末	10,022	0.0	-
2019年1月末	10,021	△0.0	-
2月末	10,020	△0.0	-
3月末	10,020	△0.0	-
4月末	10,019	△0.0	-
5月末	10,018	△0.0	-
6月末	10,018	△0.0	-
7月末	10,017	△0.0	-
8月末	10,017	△0.0	-
9月末	10,016	△0.1	-
10月末	10,016	△0.1	-
11月末	10,015	△0.1	-
(期末)2019年12月9日	10,015	△0.1	-

(注1) 騰落率は期首比。
 (注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券(転換社債券)および債券先物を除きます。
 (注3) 当ファンドは、安定した収益の確保をめざして安定運用を行っており、ベンチマークおよび参考指数はありません。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：10,022円 期末：10,015円 騰落率：△0.1%

【基準価額の主な変動要因】

短期的国債やコール・ローン等の利回りがマイナス圏で推移したことなどから、基準価額は下落しました。

◆投資環境について

○国内短期金融市況

当作成期を通じて、日銀は長短金利操作付き量的・質的金融緩和を維持しました。この金融政策を背景に、国庫短期証券(3カ月物)の利回りおよび無担保コール翌日物金利はマイナス圏で推移しました。

◆前作成期末における「今後の運用方針」

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

◆ポートフォリオについて

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行いました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

《今後の運用方針》

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

■1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料	-円
有価証券取引税	-
その他費用 (その他)	1 (1)
合 計	1

(注1) 費用の項目および算出法については前掲の「1万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。
 (注2) 項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■売買および取引の状況

公 社 債

(2018年12月11日から2019年12月9日まで)

国 内	買 付 額 千円	売 付 額 千円

(注1) 金額は受渡し代金(経過利子分は含まれておりません)。
 (注2) ()内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。
 (注3) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

公 社 債

(2018年12月11日から2019年12月9日まで)

銘	買 付 額		売 付 額	
	柄	金 額 千円	柄	金 額 千円
801 国庫短期証券 2019/3/18		250,003		

(注1) 金額は受渡し代金(経過利子分は含まれておりません)。
 (注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

当作成期末における有価証券等の組み入れはありません。

■投資信託財産の構成

2019年12月9日現在

項 目	当 期 末		
	評 価 額	比 率	
	千円		%
コール・ローン等、その他	103,888,808		100.0
投資信託財産総額	103,888,808		100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2019年12月9日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	103,888,808,252円
コール・ローン等	103,888,808,252
(B) 負債	200,442,764
未払解約金	200,000,000
その他未払費用	442,764
(C) 純資産総額(A - B)	103,688,365,488
元本	103,532,314,258
次期繰越損益金	156,051,230
(D) 受益権総口数	103,532,314,258口
1口当り基準価額(C / D)	10,015円

* 期首における元本額は40,969,233,796円、当作成期間中における追加設定元本額は198,584,973,661円、同解約元本額は136,021,893,199円です。

* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額は、ロボット・テクノロジー関連株ファンド - ロボテック-947,268円、ダイワ/ミレリアセット・インド株式ファンド - インドの匠-29,910,270円、ワールド・フィンテック革命ファンド (為替ヘッジあり) 998円、ワールド・フィンテック革命ファンド (為替ヘッジなし) 998円、新興国ソブリン・豪ドルファンド (毎月決算型) 999円、新興国ソブリン・ブラジルリアルファンド (毎月決算型) 999円、新興国ソブリン・ファンド (為替ヘッジあり/毎月決算型) 999円、U S短期ハイ・イールド社債ファンド (為替ヘッジあり/毎月決算型) 102,434円、ロボット・テクノロジー関連株ファンド - ロボテック (為替ヘッジあり) 39,849円、ロボット・テクノロジー関連株ファンド (年1回決算型) - ロボテック (年1回) - (為替ヘッジあり) 3,985円、iFreeレバレッジ S & P 500 995,814円、iFreeレバレッジN A S D A Q 100 29,943,109円、米国4資産リスク分散ファンド (年2回決算型) 658,945円、ダイワ上場投信-日経平均レバレッジ・インデックス3,526,781,327円、ダイワ上場投信-日経平均ダブルインパース・インデックス6,932,995,956円、ダイワ上場投信-TOP 1 Xレバレッジ (2倍) 指数1,154,855,756円、ダイワ上場投信-TOP 1 Xダブルインパース (-2倍) 指数1,136,478,065円、ダイワ上場投信-日経平均インパース・インデックス46,620,451,844円、ダイワ上場投信-TOP 1 Xインパース (-1倍) 指数10,870,537,799円、ダイワ上場投信-J P X日経400レバレッジ・インデックス413,400,603円、ダイワ上場投信-J P X日経400インパース・インデックス811,328,174円、ダイワ上場投信-J P X日経400ダブルインパース・インデックス401,731,588円、ダイワ米国投資法人債ファンド (為替ヘッジあり) 2016-07 997円、ダイワ米国投資法人債ファンド (部分為替ヘッジあり) 2016-07 997円、ダイワ米国投資法人債ファンド (部分為替ヘッジあり) 2017-06 997円、ダイワ米国投資法人債ファンド (部分為替ヘッジあり) 2017-06 997円、ダイワ米国投資法人債ファンド (為替ヘッジあり) 2016-10 997円、ダイワ米国投資法人債ファンド (部分為替ヘッジあり) 2016-10 997円、先進国トータルリターン戦略ファンド (リスク抑制型/適格機関投資家専用) 6,289,387,976円、ダイワ日本株式ベア・ファンド (適格機関投資家専用) 10,596,789,950円、低リスク型アロケーションファンド (金利トレンド判断付き/適格機関投資家専用) 179,433,743円、ダイワ日本国債15-20年ラダー型ファンド・マネーポートフォリオ - S L T

レード-186,241,301円、ダイワ/モルガン・スタンレー新興4カ国不動産関連ファンド-成長の植音 (つちおと) -5,020,480円、ダイワ/ハリス世界厳選株ファンド・マネー・ポートフォリオ339,840,055円、ダイワ・アセアン内需関連株ファンド・マネー・ポートフォリオ8,383,335円、低リスク型アロケーションファンド (適格機関投資家専用) 13,958,125,625円、通貨選択型ダイワ/ミレリアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンドII 豪ドル・コース (毎月分配型) 595,106円、通貨選択型ダイワ/ミレリアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンドII ブラジル・レリア・コース (毎月分配型) 987,373円、通貨選択型ダイワ/ミレリアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンドII 通貨セレクト・コース (毎月分配型) 494,581円、ダイワU S短期ハイ・イールド社債ファンド (為替ヘッジあり/年1回決算型) 9,957円、ダイワ米国バンクローン・オープン (為替ヘッジあり) 997円、ダイワ米国バンクローン・オープン (為替ヘッジなし) 997円、ダイワ新グローバル・ハイブリッド証券ファンド (為替ヘッジあり) 997円、ダイワ新グローバル・ハイブリッド証券ファンド (為替ヘッジなし) 997円、ダイワ/ミレリアセット亜細亜株式ファンド9,958,176円、<奇数月定額払出型>ダイワ先進国リートα 為替ヘッジあり49,806円、<奇数月定額払出型>ダイワ先進国リートα 為替ヘッジなし49,806円、通貨選択型ダイワ/ミレリアセット・グローバル好配当株α (毎月分配型) 米ドル・コース1,989,053円、通貨選択型ダイワ/ミレリアセット・グローバル好配当株α (毎月分配型) ブラジル・レリア・コース2,978,118円、通貨選択型ダイワ/ミレリアセット・グローバル好配当株α (毎月分配型) 通貨セレクト・コース1,691,241円、ロボット・テクノロジー関連株ファンド (年1回決算型) - ロボテック (年1回) -100,588円、ダイワ先進国リートα 為替ヘッジあり (毎月分配型) 399,083円、ダイワ先進国リートα 為替ヘッジなし (毎月分配型) 99,771円、通貨選択型ダイワ先進国リートα 円ヘッジコース (毎月分配型) 399,083円、通貨選択型ダイワ先進国リートα 通貨セレクトコース (毎月分配型) 99,771円、ダイワ/ミレリアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンド (為替ヘッジあり) 1,091,429円、ダイワ/ミレリアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンド (為替ヘッジなし) 315,004円、ダイワ/ミレリアセット・アジア・セクターリーダー株ファンド10,009,811円、ダイワ日本株ストラテジーα (通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ- 日本円・コース (毎月分配型) 398,764円、ダイワ日本株ストラテジーα (通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ- 豪ドル・コース (毎月分配型) 99,691円、ダイワ日本株ストラテジーα (通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ- ブラジル・レリア・コース (毎月分配型) 398,764円、ダイワ日本株ストラテジーα (通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ- 通貨セレクト・コース (毎月分配型) 1,993,820円、通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド - イーグルアイII- 予想分配金提示型 日本円・コース300,273円、通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド - イーグルアイII- 予想分配金提示型 日本円・コース200,861円、通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド - イーグルアイII- 予想分配金提示型 ブラジル・レリア・コース300,273円、通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド - イーグルアイII- 予想分配金提示型 米ドル・コース1,999,177円、通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド - イーグルアイII- 予想分配金提示型 通貨セレクト・コース505,900円です。

* 当期末の計算口数当りの純資産額は10,015円です。

■損益の状況

当期 自2018年12月11日 至2019年12月9日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 46,990,800円
受取利息	413,173
支払利息	△ 47,403,973
(B) その他費用	△ 10,190,474
(C) 当期損益金(A + B)	△ 57,181,274
(D) 前期繰越損益金	90,073,869
(E) 解約差損益金	△254,373,622
(F) 追加信託差損益金	377,532,257
(G) 合計(C + D + E + F)	156,051,230
次期繰越損益金(G)	156,051,230

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。